

姫路文学館年報

令和6年度(2024年度)事業報告

第33号



ごあいさつ

姫路文学館は、平成3年4月に開館して以来、33年間にわたり、郷土の文学遺産を支え、文化的土壌を育むべく多彩な事業を実施してまいりました。その間、当館の発展のためにご協力くださいました皆様方に心から感謝申し上げます。

令和6年度は、人気漫画家・森薫氏による19世紀半ばの中央アジアに暮らす遊牧民と定住民の暮らしをそれぞれの〈乙嫁（美しいお嫁さん）〉を軸にオムニバス形式で壮大な世界に紡いだ「大乙嫁語り展」、日本を代表する絵本画家・絵本作家の一人である黒井健氏の画業50周年を記念した「画業50年のあゆみ 黒井健絵本原画展」、そして、化け猫や妖怪など想像上の生き物を流麗な筆致で描きだした「石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ」の3つの特別展を開催しました。

さらに企画展として、無学で働きものの母や土への限りない愛をふるさとの方言で語りかけた詩で独自の世界を築いた加東市出身の詩人坂本遼（1904～1970）の人と作品を紹介した「生誕120年記念 詩人坂本遼展」を開催しました。

司馬遼太郎の誕生日8月7日に開催してまいりました「司馬遼太郎メモリアル・デー」では、作家の門井慶喜氏が講演され、盛況のうちに終えることができました。37回目を迎えた和辻哲郎文化賞は、一般部門に平井健介氏、学術部門に鷺田清一氏のご労作が受賞作に選ばれました。

今後とも変わらぬご厚情とともに、ますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和7年（2025）9月

館長 藤原正彦

目 次

ごあいさつ	2
目 次	3
第37回和辻哲郎文化賞	4
事業報告	
1 展覧会	
（1）特別展「大乙嫁語り展」	10
（2）特別展「画業50年のあゆみ 黒井健絵本原画展」	13
（3）特別展「石黒亜矢子 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ」	17
（4）企画展「生誕120年記念 詩人坂本遼展」	22
2 第3回藤原正彦姫路文学館長講演会	28
3 第26回司馬遼太郎メモリアル・デー	29
4 第10回藤原正彦エッセイコンクール	30
5 第13回「世界にひとつの絵本づくり」	31
6 第14回KOTOBAMAまつり	32
7 第16回如月まつり	33
8 講座・読書会	
（1）古典文学講座「源氏物語の世界」	34
（2）文学思想講座「よりよく自己を生きるために 思想と言葉の百花繚乱」	34
（3）市民名作講座「『近現代文学中の名作』に挑む」	35
（4）「司馬遼太郎の『夏草の賦』『戦雲の夢』『街道をゆく』などを読む」読書会	36
9 博物館実習・「トライやる・ウィーク」	37
10 出前講座	38
11 出版活動	39
資料概要	
1 資料収集状況	40
2 協力者一覧	42
3 文学館資料の貸出状況	44
4 文学館資料の出版物等掲載状況	44
運営管理	
1 利用状況	
（1）入館者数	45
（2）団体見学受付状況	47
（3）館使用者数	48
（4）資料特別観覧申請	49
（5）出版物等販売数	50
2 組織および分掌事務	52
3 予算の概要	53
施設の概要	54
日誌抄	58
姫路文学館友の会	60
沿革	63
条例規則集	65
利用案内	73

第 37 回 和 辻 哲 郎 文 化 賞

姫路市制百周年と姫路出身の哲学者和辻哲郎の生誕百年を記念して、昭和63年度に姫路市が創設。和辻哲郎の幅広い学的業績を顕彰し、その著作の今日的意義を国の内外にわたって探るとともに、研究者の育成かつ市民の文化水準の向上に資することを目的とする。

一般部門は、和辻哲郎が文学、歴史、芸術など、さまざまな領域において横断的かつユニークな著作を世に問い、広範な読者に訴えかけたスケールの大きな学者であったことに鑑み、文化一般におけるすぐれた著作に与えられる。

学術部門は、和辻哲郎が専門とした哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化といった領域での学術的水準を備えた、すぐれた論文に与えられる。

授賞式典は和辻哲郎の生誕日が3月1日であることに因み、3月の第1日曜日に姫路にて開催する。

1 対 象

○一般部門

令和5年(2023年)9月1日から令和6年(2024年)8月31日までに発刊された(復刊は除く)著作物(単行本)の中で、日本文化、伝統文化、風土と人間生活の関連等に関するもので国際的普遍性、斬新な視点及び深い思索性を有する評論。

○学術部門

令和5年(2023年)9月1日から令和6年(2024年)8月31日までに発刊された(復刊は除く)著作物(単行本)の中で、哲学、倫理学、宗教、思想、比較文化等に関するもので高い水準に達した研究。

2 募集方法

自薦・他薦を問わず、推薦作を一般に募る。また全国の大学等研究機関、新聞社、出版社、研究者等にも推薦を依頼する。締切は令和6年(2024年)9月3日。

3 選考委員

○一般部門

辻原 登(作家)

山内昌之(東京大学名誉教授)

ロバート キャンベル(早稲田大学特命教授)

○学術部門

清水正之(聖学院大学名誉学長)

野家啓一(東北大学名誉教授)

関根清三(東京大学名誉教授)

令和7年1月に選考委員会を開催し、受賞作を決定した。

○一般部門 選考委員会

令和7年1月10日開催。会場：私学会館アルカディア市ヶ谷

○学術部門 選考委員会

令和7年1月16日開催。オンライン会議

4 推薦会

選考手続の補助として、令和6年度は以下の諸氏による推薦会を実施した。

○一般部門

大森亮尚(古代民俗研究所代表)

石川 肇(京都日本文化資源研究所所長)

岡田勝明(姫路獨協大学名誉教授)

島村恭則（関西学院大学教授）
竹端 寛（兵庫県立大学教授）
通山由美（姫路獨協大学教授）
林 裕美子（元エリザベト音楽大学教授）
深尾葉子（大阪大学教授）
松宮園子（関西学院大学教授）
柳澤田実（関西学院大学准教授）

○学術部門

荒谷大輔（慶応義塾大学教授）
池田 喬（明治大学教授）
植村恒一郎（群馬県立女子大学名誉教授）
勢力尚雅（日本大学教授）
頼住光子（駒澤大学教授）

9月～12月にかけて全3回の推薦会を開催し、選考委員会に推薦する最終候補作5点を選考する作業を行った。オンライン会議システムを併用して開催した。

○一般部門 推薦会

第1回 令和6年9月16日開催 会場：姫路文学館
第2回 令和6年11月5日開催 会場：姫路文学館
第3回 令和6年11月24日開催 会場：姫路文学館

○学術部門 推薦会

第1回 令和6年9月20日開催 会場：學士会館
第2回 令和6年11月8日開催 オンライン会議
第3回 令和6年12月5日開催 オンライン会議

5 賞

- 正 賞 蒔絵千姫源氏絵羽子板
（千姫が男山の天満神社に奉納したという羽子板を模した蒔絵漆芸品）
○副 賞 100万円

第37回和辻哲郎文化賞受賞作

○一般部門

平井健介（甲南大学経済学部教授）

『日本統治下の台湾 一開発・植民地主義・主体性一』（令和6年6月28日刊 名古屋大学出版会）

植民地経済における統治する側とされる側、双方のはたらきに言及し、1895年から1945年の日本統治時代の台湾史を叙述しなおした意欲作。

○学術部門

鷺田清一（大阪大学名誉教授、京都市立芸術大学名誉教授）

『所有論』（令和6年1月30日刊 講談社）

「所有」について、哲学的・歴史的・学際的に多方面から考察を重ねることで、「譲渡」や「受託」の可能性を含む「所有」の理解を切り開いた力作。



応募点数の実績

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回
一般部門	56	72	81	97	149	135	132	177	204	206	170	153	124	108	89
学術部門	10	22	41	70	61	62	77	75	125	87	99	63	79	83	72
合 計	66	94	122	167	210	197	209	252	329	293	269	216	203	191	161

	16回	17回	18回	19回	20回	21回	22回	23回	24回	25回	26回	27回	28回	29回	30回
一般部門	98	102	110	105	101	90	109	95	98	115	111	123	132	138	130
学術部門	58	53	51	55	74	61	89	66	56	74	93	63	82	71	95
合 計	156	155	161	160	175	151	198	161	154	189	204	186	214	209	225

	31回	32回	33回	34回	35回	36回	37回
一般部門	150	108	119	109	92	110	98
学術部門	70	86	70	65	62	69	76
合 計	220	194	189	174	154	179	174

第37回和辻哲郎文化賞授賞式

毎年3月の第1日曜日に開催し、式典と著名な作家等を招いての記念講演会を催す。

日 時 令和7年3月2日（日） 午後1時30分～4時
 会 場 姫路市市民会館 大ホール
 内 容 《第1部》授賞式典
 選考経過 ロバート キャンベル（一般部門）
 関根清三（学術部門）
 《第2部》記念講演会
 講師／岩下尚史（作家）
 演題／饗宴のゆくえー『芸者論』その後



鷺田清一氏（学術部門受賞者）



岩下尚史氏

これまでの受賞作

第1回（昭和63年度）

一般部門 大久保喬樹『岡倉天心 驚異的な光に満ちた空虚』（小沢書店）

学術部門 ウィリアム・R・ラフルーア『廃墟に立つ理性—戦後合理性論争における和辻哲郎の位相』（『戦後日本の精神史』（岩波書店）所収）

第2回（平成元年度）

一般部門 宇佐美齊『落日論』（筑摩書房）

学術部門 上山安敏『フロイトとユング—精神分析運動とヨーロッパ知識社会』（岩波書店）

第3回（平成2年度）

一般部門 中西 進『万葉と海彼』（角川書店）

学術部門 永積洋子『近世初期の外交』（創文社）

第4回（平成3年度）

一般部門 野口武彦『江戸の兵学思想』（中央公論社）

学術部門 ヘルマン・オームス『徳川イデオロギー』（ペリかん社）

第5回（平成4年度）

一般部門 郡司正勝『郡司正勝刪定集』全六巻（白水社）

学術部門 大森荘蔵『時間と自我』（青土社）

第6回（平成5年度）

一般部門 土居良三『咸臨丸海を渡る—曾祖父・長尾幸作の日記より』（未来社）

学術部門 加藤尚武『哲学の使命—ヘーゲル哲学の精神と世界』（未来社）

第7回（平成6年度）

一般部門 堀田善衛『ミシェル城館の人』全三巻（集英社）

〃 山内 昶『「食」の歴史人類学—比較文化論の地平』（人文書院）

学術部門 関根清三『旧約における超越と象徴—解釈学的経験の系譜』（東京大学出版会）

第8回（平成7年度）

一般部門 井上義夫『評伝 D. H. ロレンス』全三巻（小沢書店）

学術部門 阿部良雄『シャルル・ボードレーン【現代性の成立】』（河出書房新社）

第9回（平成8年度）

一般部門 長谷川三千子『バベルの謎—ヤハウィストの冒険』（中央公論社）

学術部門 小野清美『テクノクラートの世界とナチズム—「近代超克」のユートピア—』（ミネルヴァ書房）

第10回（平成9年度）

一般部門 徳永 恂『ヴェニスへのゲッソーにて—反ユダヤ主義思想史への旅』（みすず書房）

学術部門 一ノ瀬正樹『人格知識論の生成—ジョン・ロックの瞬間』（東京大学出版会）

第11回（平成10年度）

一般部門 嶋田義仁『稲作文化の世界観—「古事記」神代神話を読む』（平凡社）

学術部門 佐々木毅『プラトンの呪縛—二十世紀の哲学と政治』（講談社）

第12回（平成11年度）

一般部門 西村三郎『文明のなかの博物学—西欧と日本』（紀伊國屋書店）

〃 渡辺京二『逝きし世の面影—日本近代素描 I』（葦書房）

学術部門 宇都宮芳明『カントと神—理性信仰・道徳・宗教』（岩波書店）

第13回（平成12年度）

一般部門 稲賀繁美『絵画の東方—オリエンタリズムからジャポニスムへ』（名古屋大学出版会）

学術部門 小林道夫『デカルト哲学とその射程』（弘文堂）

第14回（平成13年度）

一般部門 岡野弘彦『折口信夫伝—その思想と学問』（中央公論新社）

〃 山折哲雄『愛欲の精神史』（小学館）

学術部門 ケイト・W・ナカイ『新井白石の政治戦略—儒学と史論』（東京大学出版会）

第15回（平成14年度）

一般部門 長部日出雄『桜桃とキリスト—もう一つの太宰治伝』（文藝春秋）

- 学術部門 木村 敏 『木村敏著作集第七巻 臨床哲学論文集』（弘文堂）
 〃 植村恒一郎 『時間の本性』（勁草書房）
- 第16回（平成15年度）
 一般部門 秋山 駿 『神経と夢想 私の『罪と罰』』（講談社）
 学術部門 塩川徹也 『パスカル考』（岩波書店）
- 第17回（平成16年度）
 一般部門 平川祐弘 『ラフカディオ・ハーン 植民地化・キリスト教化・文明開化』（ミネルヴァ書房）
 学術部門 井上達夫 『法という企て』（東京大学出版会）
- 第18回（平成17年度）
 一般部門 新倉俊一 『評伝 西脇順三郎』（慶應義塾大学出版会）
 学術部門 佐藤康邦 『カント『判断力批判』と現代一目的論の新たな可能性を求めて一』（岩波書店）
- 第19回（平成18年度）
 一般部門 大泉光一 『支倉常長 慶長遣欧使節の真相―肖像画に秘められた実像―』（雄山閣）
 学術部門 今道友信 『美の存立と生成』（ピナクス出版）
- 第20回（平成19年度）
 一般部門 岩下尚史 『芸者論 神々に扮することを忘れた日本人』（雄山閣）
 学術部門 伊藤邦武 『パースの宇宙論』（岩波書店）
- 第21回（平成20年度）
 一般部門 岡谷公二 『南海漂蕩 ミクロネシアに魅せられた土方久助・杉浦佐助・中島敦』（富山房インターナショナル）
 学術部門 森 一郎 『死と誕生 ハイデガー・九鬼周造・アーレント』（東京大学出版会）
- 第22回（平成21年度）
 一般部門 今橋理子 『秋田蘭画の近代 小田野直武「不忍池図」を読む』（東京大学出版会）
 学術部門 互 盛央 『フェルディナン・ド・ソシュール 〈言語学〉の孤独、「一般言語学」の夢』（作品社）
- 第23回（平成22年度）
 一般部門 杉田弘子 『漱石の『猫』とニーチェ 稀代の哲学者に震撼した近代日本の知性たち』（白水社）
 学術部門 権左武志 『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』（岩波書店）
- 第24回（平成23年度）
 一般部門 末延芳晴 『正岡子規、従軍す』（平凡社）
 学術部門 中畑正志 『魂の変容 心的基礎概念の歴史的構成』（岩波書店）
- 第25回（平成24年度）
 一般部門 劉 岸偉 『周作人伝 ある知日派文人の精神史』（ミネルヴァ書房）
 安住恭子 『『草枕』の那美と辛亥革命』（白水社）
 学術部門 中島隆博 『共生のプラクシス 国家と宗教』（東京大学出版会）
- 第26回（平成25年度）
 一般部門 池田美紀子 『夏目漱石 眼は識る東西の字』（国書刊行会）
 学術部門 野本和幸 『フレーゲ哲学の全貌 論理主義と意味論の原型』（勁草書房）
- 第27回（平成26年度）
 一般部門 亀井俊介 『有島武郎 世間に対して真剣勝負をし続けて』（ミネルヴァ書房）
 学術部門 稲垣良典 『トマス・アクィナスの神学』（創文社）
 『トマス・アクィナス 「存在」の形而上学』（春秋社）
- 第28回（平成27年度）
 一般部門 勝又 浩 『私小説千年史 日記文学から近代文学まで』（勉誠出版）
 学術部門 佐藤 光 『柳宗悦とウィリアム・ブレイク 環流する「肯定の思想」』（東京大学出版会）
- 第29回（平成28年）
 一般部門 山口謠司 『日本語を作った男 上田万年とその時代』（集英社インターナショナル）
 学術部門 野矢茂樹 『心という難問 空間・身体・意味』（講談社）
- 第30回（平成29年度）
 一般部門 保阪正康 『ナショナリズムの昭和』（幻戯書房）
 学術部門 竹峰義和 『〈救済〉のメーディウム ベンヤミン、アドルノ、クルーゲ』（東京大学出版会）

第31回（平成30年度）

一般部門 平川 新 『戦国日本と大航海時代 秀吉・家康・政宗の外交戦略』（中央公論新社）

学術部門 石川 求 『カントと無限判断の世界』（法政大学出版局）

第32回（平成31年度／令和元年度）

一般部門 白川方明 『中央銀行 セントラルバンカーの経験した39年』（東洋経済新報社）

学術部門 松井裕美 『キュビズム芸術史 20世紀西洋美術と新しい〈現実〉』（名古屋大学出版会）

第33回（令和2年度）

一般部門 サンドラ・シャール 『『女工哀史』を再考する―失われた女性の声を求めて』（京都大学学術出版会）

学術部門 宮本久雄 『バウロの神秘論 他者との相生の地平をひらく』（東京大学出版会）

第34回（令和3年度）

一般部門 三浦 篤 『移り棲む美術 ジャポニスム、コラン、日本近代洋画』（名古屋大学出版会）

学術部門 納富信留 『ギリシア哲学史』（筑摩書房）

第35回（令和4年度）

一般部門 多胡吉郎 『生命（いのち）の罅 川端康成と「特攻」』（現代書館）

学術部門 渋谷治美 『カントと自己実現―人間讃歌とそのゆくえ』（花伝社）

第36回（令和5年度）

一般部門 小坂洋右 『アイヌの時空を旅する―奪われぬ魂』（藤原書店）

学術部門 嶺 秀樹 『絶対無の思索へ コンテキストの中の西田・田辺哲学』（法政大学出版局）

事業報告

1 展覧会

(1) 特別展「大乙嫁語り展」

漫画家・森薫さんによる十九世紀半ばの中央アジアを舞台にした人気漫画「乙嫁語り」の世界を、直筆のカラー、モノクロ原稿で味わう展覧会を開催。民族衣装や部屋のしつらえなど細部にわたるまで丁寧に描き込まれた原画・原稿を間近にじっくりと見る事ができる機会となった。また、中央アジア5ヶ国の在日大使館の協力により、民族衣装の展示とパネルで現在の様子を紹介するコーナーを設けた。



ポスター

会 期	令和6年(2024年)4月27日(土)～6月23日(日) ※休館日:毎週月曜日(4月29日、5月6日は開館)、5月7日(火)
会 場	姫路文学館 北館
観 覧 料	一般800円、大学生・高校生460円、中学・小学生220円 ※20名以上の団体は2割引
主 催	姫路文学館
協 力	青騎士編集部
企画制作・協力	KADOKAWA
後 援	朝日新聞姫路支局、神戸新聞社、産経新聞社、サンテレビジョン、播磨時報社、 播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティFM21、毎日新聞姫路支局、 読売新聞姫路支局、ラジオ関西
漫 画 家	森 薫
開催日数	51日間
観覧者数	5,463人
出品点数	約160点
印刷物等	ポスターB2、B3、A3／チラシA4



第1会場



第2会場

関連行事

(1) 「森薫先生のらくがき雑談会」

日時 令和6年6月1日(土) 午後2時～3時30分

会場 姫路文学館講堂(北館3階)

出演 森 薫(漫画家)

司会進行 石井茜(北九州市漫画ミュージアム学芸員)

参加者 98人(事前応募当選者)

※6月4日よりイベントの様様を北館交流ひろばで上映。
また、イベント内で作成された作品を第2会場で展示。



森薫先生のらくがき雑談会

○来場者限定プレゼント

「乙嫁語り」ネームリーフレット(絵柄日替り)を1枚進呈。

○SNS投稿キャンペーン

来館当日、「#大乙嫁展」のハッシュタグをつけて、X、もしくはInstagramに「大乙嫁語り展」姫路会場の感想を投稿し、南館受付スタッフに観覧券の半券と共に投稿画面を見せると、入場特典の「乙嫁語り」ネームリーフレットをもう1枚進呈。

出品目録 ※原画・原稿の点数は額装点数(原画・原稿の所蔵はすべて森薫氏)

【第1会場】

AREA01 彩りの乙嫁たち カラー原画 37点

AREA02 アミル 原稿 23点

AREA03 タラス 原稿 11点

○現在の中央アジア5ヶ国の紹介コーナー

ウズベキスタン共和国、カザフスタン共和国、キルギス共和国、タジキスタン共和国、トルクメニスタン共和国

民族衣装と写真パネル各7枚を展示

協力：駐日ウズベキスタン共和国大使館、駐日カザフスタン共和国大使館、駐日キルギス共和国大使館、駐日タジキスタン共和国大使館、駐日トルクメニスタン大使館



現在の中央アジア5ヶ国紹介コーナー

【第2会場】

AREA04 ライラとレイリ 原稿 13点

AREA05 アニス 原稿 9点

○過去の展覧会場でのライブドローイング作品 11点

○翻訳出版展示 12ヶ国 12点

○森薫先生のインタビューや写真をもとにイメージした作業スペースコーナー

ネーム、参考図書、インタビューノート、鉛筆、ペン先、インクなど

AREA06	パリヤ	原稿	10点
AREA07	スミスの旅路	原稿	8点
AREA08	森薫先生厳選 一歴史と文化	原稿	12点
AREA09	馬競べ	原稿	16点
○一問一答	パネル	23枚	
○一問一答中に登場した漫画コーナー		17点	
○森薫先生の著作			
	「エマ」1巻、「シャーリー」1巻	2点	
OTHER WORKS	原稿	4点	

●森薫先生へのメッセージコーナー

来場者がメッセージを記すノートを設置。

●映像コーナー

○第1会場

森薫ライブドローイング「線を描く楽しさ」ダイジェスト映像

2022年9月25日（日）開催 於：京都漫画ミュージアム 上映時間：21分56秒

○第2会場

展覧会用映像 森薫 作画映像

上映時間：5分30秒

○交流ひろば

・4月27日（土）～6月2日（日）

「集まれ未来の漫画家！森薫先生ライブドローイング&トーク」記録映像

2023年6月17日（土）開催 於：あーすぶらざ（横浜） 上映時間：1時間31分33秒

・6月4日（火）～6月23日（日）

「森薫先生のらくがき雑談会」記録映像

2024年6月1日（土）開催 於：姫路文学館 上映時間：1時間32分

●フォトスポット

敷地内にキャラクターパネル「アミルとカルクク」、「パリヤ」、「ライラ&レイリとサーム&サーミ」を設置。



アミルとカルクク



パリヤ



ライラ&レイリとサーム&サーミ

(2) 特別展「画業50年のあゆみ 黒井健絵本原画展」

日本を代表する絵本画家 黒井健さんの画業50周年を記念した展覧会。

イラストレーター時代に手がけた貴重なカット作品から、出産を控えたお母さんたちを中心に人気の高い『うまれてきてくれてありがとう』（にしもとよう・作）、子どもの創造力とは何かを問いかけ話題となった『まっくら』（高崎卓馬・作）などの新作絵本、さらに自ら文章を書いた画文集『ミシシッピ』まで、約180点の原画を展示し、その多彩な画業の全貌にせまった。

やさしく繊細な絵画世界に癒された大人から、ころわんの愛らしさに魅了された子どもたちまで、それぞれに黒井健の世界を堪能できる機会となった。



会 期	令和 6 年（2024年）7 月 6 日（土）～9 月 1 日（日） ※休館日：毎週月曜日（7 月 15 日、8 月 12 日は開館）
会 場	姫路文学館 北館
観 覧 料	一般700円、大学・高校生400円、中学・小学生200円 ※20名以上の団体は 2 割引
主 催	姫路文学館
協 力	黒井健絵本ハウス
企画制作	オフィス渋谷
後 援	朝日新聞姫路支局、神戸新聞社、産経新聞社、サンテレビジョン、播磨時報社、 播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティ FM21、毎日新聞姫路支局、 読売新聞姫路支局、ラジオ関西
開催日数	51日間
観覧者数	7,246人
出品点数	約180点
印刷物等	ポスターB2、B3、A3／チラシA4



展覧会場



開会式での黒井健氏ところわん

関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂（北館3階）

（1）黒井健サイン会

日時 令和6年7月6日（土）
午前の部 午前11時30分～午後1時
午後の部 午後2時～3時30分

参加者 各回80人



サイン会

（2）黒井健講演会「絵本の生まれ方」

日時 令和6年7月7日（日）午後1時30分～3時

参加者 150人

（3）講演会「絵本をつくる仕事」

（第2回友の会研修講座として実施）

日時 令和6年8月10日（土）午後1時30分～3時

講師 長岡香織（講談社幼児図書編集）

参加者 65人



長岡香織氏

（4）えほんのじかん ～ぞうさんのおはなし会

日時 令和6年7月20日（土）・8月17日（土）
いずれも午後1時30分～2時

出演 姫路文学館友の会ボランティア

参加者 計60人

（5）「劇場版ごん GON, THE LITTLE FOX」上映会

日時 令和6年8月24日（土）
午前の部 午前11時～
午後の部 午後1時30分～

参加者 計130人



館内に配置したころわんのポップ



撮影スポット

出品目録

第1章イラストレーターになる

タイトル	展示数	出版年	書誌情報	技法・素材
『あめってあめ』	2	1976	矢崎節夫・作 ポプラ社	オイルパステル＋色鉛筆
『ふたりのおばあさん』	2	1979	くろいけん・作 コーキ出版	色鉛筆
『どんぐりたろうのき』	1	1979	鶴見正夫・作 校正出版社	色鉛筆
『うさこのサンタクロース』	3	1980	矢崎節夫・作 フレーベル館	色鉛筆
『ゆうびんうさぎとしろくまサンタ』	4	1984	木暮正夫・作 ひさかたチャイルド	色鉛筆
『ヤンときいろいブルンル』	2	1986	やすいすえこ・作 フレーベル館	色鉛筆
『たぬきのえきょうさん』	2	1986	船崎靖子・作 ポプラ社	色鉛筆

第2章『ころわん』に描く

『ころわんはおにちゃん』	2	1986	間所ひさこ・作 ひさかたチャイルド	色鉛筆
『ころわんとふわふわ』	2	1988	間所ひさこ・作 ひさかたチャイルド	色鉛筆
『よなかのころわん』	2	1991	間所ひさこ・作 ひさかたチャイルド	色鉛筆
『ころわんとがががが』	2	1995	間所ひさこ・作 ひさかたチャイルド	色鉛筆
『ころわんとしろいくも』	2	1998	間所ひさこ・作 ひさかたチャイルド	色鉛筆
『あきいろのころわん』	2	2016	間所ひさこ・作 ひさかたチャイルド	色鉛筆
『しろいしろいころわん』	2	2019	間所ひさこ・作 ひさかたチャイルド	色鉛筆

第3章『ごんぎつね』に描いて

『ごんぎつね』	6	1986	新美南吉・作 偕成社	色鉛筆
『ぶたのモモコはバレリーナ』	3	1986	森山京・作 小峰書店	色鉛筆
『ぶたのモモコとフルーツパーラー』	3	1993	森山京・作 小峰書店	色鉛筆
『てぶくろを買いに』	8	1988	新美南吉・作 偕成社	色鉛筆
『おかあさんの目』	4	1988	あまんきみこ・作 あかね書房	色鉛筆
『あのね、サンタの国ではね…』	3	1990	偕成社	色鉛筆

第4章 心象を描く（自作）

『ミシシッピ 900 マイル カヌーの旅』	5	1988	黒井健&ティモシー・ランニング・文 偕成社	色鉛筆
『HOTEL』	4	1992	黒井健・作 河出書房新社	色鉛筆
『SWEET TIMES』	3	1992	黒井健・作 小学館	色鉛筆
『12月24日』	5	2009	（ギフト版）白泉社	色鉛筆
『LONG NIGHT』	3	1995	黒井健・作 河出書房新社	色鉛筆

第5章 宮沢賢治に描く

『猫の事務所』	4	1994	宮沢賢治・作 偕成社	色鉛筆
『雲の信号』	8	1995	宮沢賢治・作 偕成社	色鉛筆
『私のイーハトヴ』	5	1997	宮沢賢治・詩 偕成社	色鉛筆
『水仙月の四日』	3	2012	ミキハウス	CG＋色鉛筆
ケンタウルス祭の夜（『銀河鉄道の夜』）	1	2012	*オリジナル原画	色鉛筆＋オイルパステル

第6章 ふるさとを描く

『しなの川』	8	1994	鶴見正夫・作 PHP 研究所	色鉛筆
『ふる里へ』	6	2006	星野知子・作 小学館	色鉛筆

第7章 児童文学に描く

『月夜のバス』	3	2002	杉みきこ・作偕成社	色鉛筆
『またたびトラベル』	3	2004	茂市久美子・学習研究社	色鉛筆
『がちょうのたんじょうび』	4	2005	新美南吉・作 学研プラス	色鉛筆
『海のおっちゃんになったぼく』	5	2006	なみかわみさ・作 クレヨンハウス	色鉛筆＋パステル
『天の町やなぎ通り』	4	2007	なみかわみさ・作 クレヨンハウス	色鉛筆
『だれかがぼくを』	1	2010	内田麟太郎・作 PHP 研究所	色鉛筆＋オイルパステル

第8章 世代を超えて

『この街で』	2	2006	新井満・作 PHP 研究所	色鉛筆
『リリアン』	2	2006	山田太一・作 小学館	色鉛筆＋オイルパステル
『うまれてきてくれてありがとう』	5	2011	にしもとよう・作 童心社	色鉛筆＋オイルパステル
『ハナミズキのみち』	6	2013	金の星社	色鉛筆＋オイルパステル
『おつきみ』	2	2016	あまんきみこ・作 ひさかたチャイルド	色鉛筆＋オイルパステル
『こすずめとゆき』	2	2016	深山さくら・作 佼成出版	色鉛筆＋オイルパステル
『スキップスキップ』	2	2020	あまんきみこ・作 ひさかたチャイルド	色鉛筆、オイルパステル
『ネコノテパンヤ』	2	2020	高木さんご・作 ひさかたチャイルド	色鉛筆、パステル、オイルパステル
『ふうせん』 金子みすゞ手のひら詩集	1	2020	金子みすゞ・作 フルーベル館	色鉛筆
『あるとき』 金子みすゞ手のひら詩集	1	2020	金子みすゞ・作 フルーベル館	色鉛筆
『まっくら』	3	2021	高崎卓馬・作 講談社	色鉛筆、コピック／用紙：黄ボール
『すずばあちゃんのおくりもの』	3	2022	最上一平・作 新日本出版社	色鉛筆＋オイルパステル

(2) 特別展「石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ」

日本画を思わせる流麗な筆致で、化け猫や妖怪など想像上の生き物を描く石黒亜矢子さんの作品約350点を展覧した大規模巡回展。

『いもうとかいぎ』『えとえとがっせん』『ねこまたごよみ』などの絵本原画を中心に、当館にて初出品となった画業最初期の作品や、本展のために描きおろされた新作が展示され、原画の迫力や洗練されたイメージーションに触れる内容を多くの人が楽しんだ。

また、ぬいぐるみ作家・今井昌代さんとのコラボレーション展示に加え、作家の愛読書や愛用品（画材・小物）の紹介、展示室入口に設置したあやかしの世界へと誘う大型の櫓型ゲート、読書エリアなど、石黒作品の世界を堪能する多彩な展示や演出も本展の大きな魅力となった。



会 期	令和6年(2024)9月14日(土)～11月24日(日) ※休館日：月曜日、9月17日(火)、24日(火)、10月15日(火)、11月5日(火)
会 場	姫路文学館 北館
観 覧 料	一般1000円、大学・高校生580円、中学・小学生280円 ※20名以上の団体は2割引
主 催	姫路文学館、朝日新聞社
特別協力	玄光社
協 力	あかね書房、岩崎書店、WAVE出版、URESICA、偕成社、好学社、BL出版、ビリケン出版、ポプラ社
企 画	世田谷文学館
後 援	サンテレビジョン、播磨時報社、播磨リビング新聞社、姫路ケーブルテレビ、姫路シティFM21、ラジオ関西
グラフィックデザイン	大島依提亜
開催日数	62日間
観覧者数	7,728人
出品点数	約350点
印刷物等	ポスターB2、B3、A3／チラシA4



観覧会場入口の櫓ゲート



第1会場



石黒亜矢子×石井昌代コラボレーション作品
「くまのお茶会」



第2会場

関連行事

- (1) 石黒亜矢子サイン会
日時 令和5年6月24日(土) 午後1時～3時15分
会場 姫路文学館講堂(北館3階)
参加者 120人



石黒亜矢子氏(サイン会)

- (2) 〈姫路文学館友の会協賛事業〉
京極夏彦講演会「ばけねこクロニクル」
日時 令和6年10月14日(日・祝) 午後1時30分～3時
会場 姫路キャスパホール
参加者 300人



京極夏彦氏

- (3) 「あつまれ! ねこまた候補たち」
内容 Xにて、「#石黒亜矢子展」「#ねこまた候補」をつけて愛猫たちの写真やイラストなどを投稿したり、ねこまた世界にちなんだ合言葉を展示室入室時に伝えたりする参加型イベント。参加者には、姫路会場限定のステッカーをプレゼントした。
実施日 敬老猫又の日(9月16日)
ニャロウィン(10月26日～10月31日)
しちごにゃん(11月15日)
参加者 のべ1000人



©Ayako Ishiguro

配布ステッカー

出品目録

作品名	点数	制作年	出版社
開幕記念描き下ろし色紙（石黒亜矢子）	2	2024 年	
来館記念描きおろし色紙（伊藤潤二）	1	2024 年	
1 ねこまたごよみ			
「ねこまたごよみ」原画（カットイラストを含む）	15	2021 年	ポプラ社
「ねこまたごよみ」下絵	1	2021 年	
猫又家族	1	2021 年	
ばけねこのくのにのクリスマスツリー	1	2016 年	
雷	1	2021 年	
牛	1	2021 年	
2 いもうとかいぎ			
妖精学校	1	2022 年	
「いもうとかいぎ」原画	23	2016 年	ビリケン出版
「いもうとかいぎ」下絵	8	2016 年	
木彫人形《てふちゃん》（原型師ハマハヤオ 作）	1		
布人形《妖精てふちゃん》（雅太郎玩具店 作）	1	2022～2023 年	
布人形《ねえね》（雅太郎玩具店 作）	1	2022～2023 年	
布人形《いもちゃん》（雅太郎玩具店 作）	1	2022～2023 年	
てふちゃん人形函絵	1	2016 年	
芋虫タクシー	1	2018 年	
妖精と猫	1	2018 年	
アザミとねえね	1	2020 年	
しじみト木の子	1	2016 年	
下のコ運動会	1		
上のコ運動会	1		
菩薩のような白蛾 下絵	1		
3 UMA			
「つちんこつつちゃん」原画	9	2020 年	好学社
イエティ	1		
〈テレマガ UMA 図鑑〉「テレビマガジン」（講談社）より イエティ、クラーケン、スカイフィッシュ、チュバカブラ、ツチノコ、ビッグフット、 モスマン、モンゴリアン、河童、翼猫	10	2021～2022 年	
スカイフィッシュ、 下絵	2		
〈創作生物図鑑〉「イラストレーション」（玄光社）より 大垂耳岩獣、伯紅獣、大顎髭獣	3	2021～2022 年	
珍奇獣	1	2023 年	
4 初期作品			
妖怪坊主シリーズ「鳥の神編」（二曲一隻）	1		
孫悟空	1		
宿神	1	2002 年	
空魚	1	1990 年代	
つねり鳥	1	1990 年代	
女王蟻 蟻人の生態	1		
壺入蛸兵衛	1		
鳥賊塩辛之丞	1		
金魚ちゃんと線香花	1	2001 年	
金魚ちゃん雪遊び	1	2002 年	
童寝子	1	2001 年	
妖怪大合戦	1	2001 年	
『平成版物の怪図録』	1	2002 年	マガジンハウス
5 九つの星			
「九つの星」原画（カットイラストを含む）	17	2019 年	URESICA
優しい獣	1		
星を追う子供達	1		
星を拾う子供	1		
お友達が遊びに来た	1		
樹神	1	2017 年	
土神	1	2017 年	
馬竜族と竜馬	1	2023 年	
Topic 石黒亜矢子をつくるもの			
愛猫よんすけ	1		
私と次郎	1		
てんまるととんいち	1		
子供と猫	1		

「てんまると家族絵日記」原画	複数	2014 年～2018 年	URESICA
「私の好きなもの」コーナー（愛読書・DVD・小物など）	複数		
「画室から」コーナー（筆・墨・絵の具・パステル・コヒー・はけ・紙 など画材）	複数		
6 コラボレーション作品			
石黒亜矢子×石井昌代コラボレーション展示「くまのお茶会」	1		
星の王子様	1	2016 年	
オズのまほうつかい	1		
アリスとニヤニヤ猫	1	2017 年	
京極夏彦『数えずの井戸』（中央公論社）装画（別バージョンを含む）	3	2013 年	
京極夏彦『遠巷説百物語』（中央公論社）装画	1	2022 年	
平山夢明『羅生師』（玄冬舎「PONTOON」連載）挿画 「羅生師」「女と子ども」「妖怪退治」	3		
かたやま和華『猫の手、貸します 猫の手屋繁盛記』（集英社文庫）装画	1	2014 年	
かたやま和華『化け猫、まかり通る 猫の手屋繁盛記』（集英社文庫）装画	1	2015 年	
小泉凡『怪談四代記 八雲のいたずら』（講談社文庫）装画 「異類婚姻譚」	1	2016 年	
本谷有希子『異類婚姻譚』（講談社文庫）装画	1	2018 年	
伊藤比呂美『ショローの女』（中央公論新社「婦人公論」連載）挿画	5	2018 年～2021 年	
鈴木棠三『日本俗信辞典 動物編』（角川ソフィア文庫）表紙用イラスト	11	2020 年	
常光徹『日本俗信辞典 衣装編』（角川ソフィア文庫）表紙用イラスト	2	2021 年	
小学校2年生の『書写』教科書（光村図書）イラスト	1	2019 年	
『猫かるた』（文・岡林ちひろ）（白泉社）パッケージデザイン	1	2017 年	
東京国立博物館 特別展「運慶」公式キャラクターデザイン 「天燈鬼」「龍燈鬼」	2	2017 年	
女子プロレス団体 SUKEBAN チャンピオンベルトのための描き下ろし	1	2023 年	
LACCO TOWER	1	2019 年	
無題（ディスコミュニケーションコラボ）	1		
『キネバス』VOL.12 表紙	1	2022 年	
デリニャテッセン	1		
双子の猫ちゃん	1		
てんむりんとんむりん	1		
ニャグ&ニャーティ	1		
MADMAX2 鳥獣戯画	1	2015 年	
マッドマックス 怒りのデスロード	1		
ハニヤロマン	1		
ツメーニャンズ	1		
ニャッキー	1		
パシフィックニャム	1		
X エックス	2	2022 年	
シュワニャン	1		
映画『おらおらでひとりいぐも』（監督・脚本 沖田修一）プロモーション用イラストポスター	1	2020 年	
モルボル		2022 年	
ゲンガー			
7 奇想の動物たち			
「島田秀平のスピリチュアル都市伝説」挿絵原画	37		
〈キチキチサーカス団〉より「ジャックキャット」「切断鼠ギャッピーズ」	2	2017 年	
笑笑猫	1	2014 年	
ビッキー	1	2017 年	
白虎	1	2015 年	
橙虎	1	2015 年	
アマビエとアマビコ	1	2020 年	
アマビエ	1		
毛羽毛現	1	2020 年	
麒麟図			
8 干支とすもう			
「えどえとがっせん」原画	21	2016 年	WAVE 出版
「えとえとがっせん」下絵	2		
えと火消し	12	2023 年	
「どっせい！ねこまたずもう」原画	13	2018 年	ボプラ社
「どっせい！ねこまたずもう」ロゴ	1	2018 年	
「どっせい！ねこまたずもう」見返し	2	2018 年	
猫又横綱 びんの富士	1	2018 年	
猫又相撲 横綱	1	2018 年	
9 百鬼夜行			
「おろろんおろろん」	8	2019 年	偕成社
「おばけえんはすぐそこです」（詩・山崎りり子）原画	5	2017 年	福音館書店
「とうふこぞう」原画	5	2015 年	岩崎書店

京極夏彦『豆腐小僧双六道中ふりだし』（講談社）挿画	1	2003 年	
京極夏彦『豆腐小僧双六道中おやすみ』（角川書店）挿画	1	2011 年	
京極夏彦『豆腐小僧双六道中ふりだし』	1	2003 年	講談社
京極夏彦『豆腐小僧双六道中おやすみ』	1	2011 年	角川書店
京極夏彦『豆腐小僧双六道中』（「怪」連載）挿画	5	2009～2010 年	
京極夏彦『百器徒然袋－風』（講談社ノベルス）装画	1	2004 年	
京極夏彦『邪魅の雫』（講談社ノベルス）装画	1	2006 年	
京極夏彦『完本 百鬼夜行 陰』（講談社ノベルス）装画	1	2016 年	
京極夏彦『完本 百鬼夜行 陽』（講談社ノベルス）装画	1	2016 年	
「怪と幽」16 号 表紙イラスト	1	2024 年	
稲荷狐	1	2024 年	
うつぶせ犬	1		
獅子舞	1	2023 年	
獅子舞	1	2023 年	
獅子炎	1		
滝夜叉姫	1	2012 年	
半魚人と人魚	1		
かちかち山	1		
剣の綺羅と首無しの馬鹿 〈妖怪坊主シリーズ〉	1		
漆ぬりの女	1		
青山盆踊り	1	2015 年	
10 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ			
「おおきなねことちいさなねこ」原画	8		好学社
おおきなねことちいさなねこ	1		
「ばけねこぞろぞろ」原画	13	2015 年	あかね書房
「こねこのきょうだいかぞえうた おふろ」（作・石津ちひろ）	9	2021 年	BL 出版
「こねこのきょうだいかぞえうた おやつ」（作・石津ちひろ）	9	2021 年	BL 出版
「こねこのきょうだいかぞえうた おやすみ」（作・石津ちひろ）	9	2021 年	BL 出版
阿咩猫	1	2020 年	
化け猫天邪鬼成敗絵図 てんまる	1	2023 年	
化け猫天邪鬼成敗絵図 とんいち	1	2023 年	
トレーディングカードゲーム「マジック・ザ・ギャザリング」『ストリクスヘイヴン：魔法学院』ビジュアル 《過大な贈り物/Generous Gift》《木霊の手の内/Kodama's Reach》《先祖伝来の宝刀/Heirloom Blade》 《稲妻の連鎖/Chain Lightning》《渦巻く知識/Brainstorm》《胸躍る可能性/Thrill of Possibility》	6	2021 年	
毒つる苺〈猫舌苺〉	1	2013 年	
しめじ〈猫舌苺〉	1	2013 年	
たまご苺〈猫舌苺〉	1	2013 年	
すねこすり猫	1	2014 年	
蝙蝠猫	1	2014 年	
化け猫団扇	1	2014 年	
化け猫団扇	1	2018 年	
化け猫滑稽図	1		
グラニフ・コラボワンピースのための書き下ろし	3		
にゃういち	1		
犬猫プロレス	1	2012 年	
犬猫プロレス	1	2021 年	
大百足と化け猫	1	2019 年	
ナイスキャッツ	1	2019 年	
鬼子母猫 佰號	1	2016 年	
珍奇猫 行進絵	1	2023 年	
カンファーさんにゃん	1		
タツェルブルム	1	2023 年	
地獄十王図	1	2022 年	
猫頭杖	1	2023 年	
猫又弥勒菩薩	1	2023 年	
黒雲（右）	1	2023 年	
火炎（左）	1	2023 年	
京都高島屋 S.C 開業記念描き下ろし	4	2023 年	
ねこまた樹の果物狩り	1	2024 年	

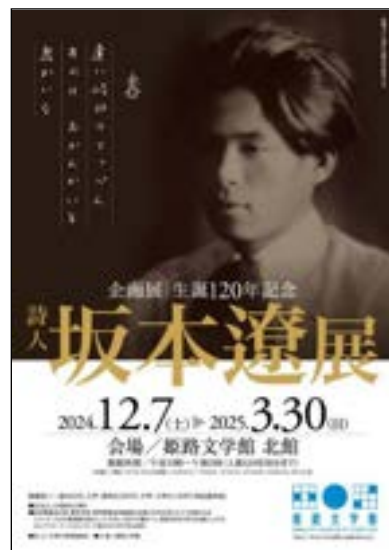
(4) 企画展「生誕120年記念 詩人坂本遼展」

ふるさとの方言で現代詩に独自の世界を築いた兵庫県加東市出身の詩人坂本遼（1904-1970）の生誕120年を記念した展覧会。坂本遼旧蔵品を保管しておられる坂本家ご遺族や加東市教育委員会のご厚意で、膨大な未公開資料の存在を確認し、それらの調査を行うことができた。なかでも関西学院時代を中心とした700通以上にのぼる書簡類は、友人や家族との関係性を伝えるとともに、従来の年譜の空白部分を埋める上で大きな手がかりとなった。

会期中は、戦後の坂本がライフワークとした児童詩雑誌「きりん」に格別の思いを寄せるかつての投稿者や教育関係者をはじめ、坂本が在学した1920年代の関西学院の文学的環境に詳しい研究者や、言語社会学の側面から坂本の方言詩に着目する専門家、さらには坂本の依頼で『たんぽぽ』の装幀を手がけた浅野孟府のご遺族や「きりん」を舞台に活躍した〈具体美術協会〉の研究者など美術分野の関係者の来場も相次いだ。

閉幕後も生家から新たに関西学院時代の小説や詩、イラストの草稿が発見されるなど、本展を機に坂本と彼をめぐる同時代の文学界、美術界の様相を探究する機運が活発化していることは意義深い。

なお、来場者には、坂本の詩を収めたカードを8種類の中から1枚ずつアトランダムにプレゼント。坂本の詩集をたやすく手に入れることができない今、出会いの一篇を口ずさんでいただけたら、との思いを込めた。



会 期 令和6年（2024年）12月7日（土）～令和7年（2025年）3月30日（日）

※休館日：毎週月曜日（1月13日は開館）

12月25日（水）～1月5日（日）、1月14日（火）、2月12日（水）、3月21日（金）

会 場 姫路文学館 北館

観 覧 料 一般450円、大学生・高校生300円、中学・小学生150円（常設展料金）

※20名以上の団体は2割引

主 催 姫路文学館

開催日数 85日間

観覧者数 2,672人

出品点数 約200点

印刷物等 ポスターA3／チラシA4

図 録 A4判 40ページ オールカラー 500部 令和6年12月7日

刊行 販売価格1,000円

〔寄稿〕

「おかんのいる風景」 高橋夏男（詩人・坂本遼研究者）

「方言に息づく身体－坂本遼の詩の魅力について」

時里二郎（詩人）

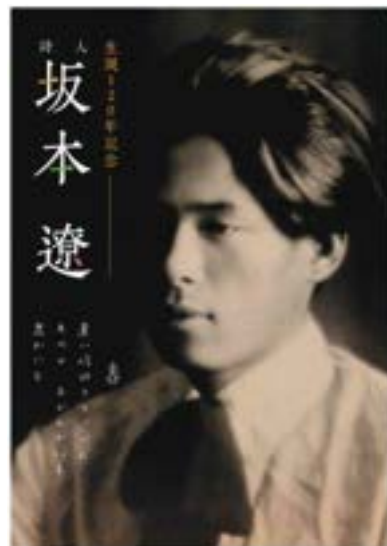


図 録



展 覧 会 場

関連行事

※会場はすべて姫路文学館講堂（北館3階）

（1）展示解説会

日 時 令和6年（2024年）12月15日（日）
令和7年（2025年）2月9日（日）
午後1時30分～3時

講 師 担当学芸員

参加者 計80人

（2）朗読会「たんぽぽの詩人坂本遼の詩を味わう」

日 時 令和7年（2025年）2月24日（月・振休）
午後2時～3時10分

出 演 一谷 円（劇団プロデュース・F）

参加者 85人



朗読会 一谷円氏



郷里の加東市立東条学園小中学校6年生の団体見学



来場者に配布した詩のプレゼント

出品目録

特に記載のないものは原則として当館蔵
坂本遼旧蔵資料のうち、坂本家ご遺族所蔵のものには◎を、加東市教育委員会保管のものには□を付した。

〔資料名〕	〔年月日〕	〔所蔵〕
第1章 詩情のみなもと 坂本遼のイーハトヴ		
1 教育者の父、農婦の母		
写真 生家周辺		
写真 生家	昭和40年代（推定）	◎
写真 父 芳太郎		◎
若き日の父芳太郎に関する「廃嫡ノ上親戚死跡相続ノ儀」についての伺い書の下書き		◎
岸本勝蔵、阪本芳太郎著『暗算自修書』	大正元年（1912） 徳永秀画館	◎
父芳太郎「学校の希望」下書き		◎
写真 六瀬の風景（兵庫県川辺郡猪名川町）		
写真 父芳太郎揮毫「改修記念碑」	明治42年（1909）12月建立	◎
写真 母 みつ		◎
2 少年時代 “少しく涙もろし”		
写真 上東条尋常高等小学校		
上東条尋常高等小学校尋常科3年時の算術練習帳	大正2年（1913）12月	◎
参考図版 上東条尋常高等小学校時代の成績表（コピー）		山本英孝旧蔵／加東市教育委員会
写真 小野中学校		
参考図版 兵庫県立小野中学校校友会会報	大正11年（1922）11月	兵庫県立小野高等学校蜻蛉会館蔵
小野中学修身・国語教諭永井貞雄 坂本遼宛葉書	大正12年（1923）7月29日	◎
関西学院1年生時の作文「文学と社会問題」	大正12年（1923）推定	◎
写真 坂本遼のふるさと 加東市横谷（旧・上東条村横谷）周辺	昭和38年度（1963）撮影の国土地理院空中写真を加工	
第2章 神戸・原田の森の青春 関西学院時代		
写真 関西学院 原田の森キャンパスを西上空から望む		関西学院大学 学院史編纂室所蔵
写真 旧関西学院ランチ・メモリアル・チャペル	明治37年（1904）建立	
写真 関西学院時代		
写真 関西学院文学部（東面）		関西学院大学 学院史編纂室所蔵
写真 神戸時代のミリカン一家	昭和2年（1927）	東京フリー・メソジスト教団提供
奉仕先のロイ・W・ミリカンが湊川伝道館に宛てた紹介状	大正12年（1923年）5月5日	□
小野中学時代の恩師永井貞雄に宛てたと思われる葉書 ※未投函	大正12年（1923）推定	◎
1 文学へのまなざし		
関西学院1年時の作文「文学と私」		◎
「浄瑠璃研究（近松）」レポート		□
読後感ノート	大正14年（1925）推定	◎
有島武郎の小説「生れ出づる悩み」の書き写し		◎
大藤豊教授に借りて読んだ悦田喜和雄「くだかれた心」の感想メモ	大正14年（1925）1月15日	◎
トマス・ハーディ／内多精一訳『薄命のヂュード』	大正14年（1925）8月 改造社	◎
卒業論文「ディケンズと露西亜文学との交渉」草稿	大正15年（1926）	◎
「外国文学 露西亜文学研究」ノート	大正13年（1924）9月起筆	◎
ディケンズ THE CRICKET ON THE HEARTH	J.M.DENT & SONS Ltd. LONDON	◎
2 創作の始まり 「日本詩人」第二新詩人号入選		
詩「土用のいれ雲」原稿		□
詩「僕にだけみせてくれた洋服」原稿		□
「日本詩人」第二新詩人号	大正14年（1925）2月1日 新潮社	◎
3 同級生 竹中郁		
「横顔」10号	大正14年（1925）10月1日 関西学院文学部内 横顔社	◎
「羅針」10号	大正15年（1926）4月5日 海港詩人倶楽部	□
「羅針」11号	大正15年（1926）6月30日 海港詩人倶楽部	◎
写真 竹中郁ら友人と		
「丹波のからす」原稿	大正15年（1926）推定	□
竹中郁 第一詩集『黄蜂と花粉』献呈本	大正15年（1926）2月 海港詩人倶楽部	◎
竹中郁 坂本遼宛書簡	昭和元年（1926）12月25日	◎
【関西学院界隈】		
写真 市電上筒井停留所		神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ
出費の記録		□
父からの手紙	大正15年（1926）5月19日	◎
写真 「神戸市地図 付西灘村」	大正15年5月5日 向永虎吉発行を加工	
坂本がある女性に贈った自身のポートレート		高橋夏男氏提供
写真 坂口通り		神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ
4 「関西文学」と月曜会		
「関西文学」14号	大正15年（1926）6月20日 関西学院文学部英文学会	◎

「関西文学」16号	昭和2年(1927)2月11日 関西学院文学部英文学会	◎
写真 月曜会の仲間たち	大正14年(1925)頃 推定	神戸文学館蔵／飯尾弘旧蔵
「ヒッポドロム」創刊号	大正15年(1926)1月 推定 関西学院文学部内 月曜会	◎
写真 「ヒッポドロム」の同人たち	大正14年(1925)推定	神戸文学館蔵／飯尾弘旧蔵アルバム
「関西文学」8号	大正12年(1923)7月1日 関西学院高等部学会	◎
写真 前衛芸術家グループ〈DVL〉の同人たち	大正13年(1924)11月推定 兵庫県会議事堂前	神戸文学館蔵／飯尾弘旧蔵アルバム
写真 洋館〈化け物屋敷〉での前衛劇	大正13年(1924)推定	神戸文学館蔵／飯尾弘旧蔵アルバム
「造型作品展覧会」ポスター	昭和2年(1927)1月日～19日 大阪・松坂屋	◎
「風車」創刊号	大正15年(1926)2月10日 風車社	◎
「街道」1～6輯(6輯:改題「火喰鳥」)	大正15年(1926)5月～昭和2年(1927)1月26日	◎
池田正樹(昌夫)詩集『自燈』	昭和10年(1935)4月 北窓社	
愛蔵の山村暮鳥 詩集『雲』	大正14年(1925)5月(3版) イデア書院	◎
【母からの手紙と詩「時雨」】		
関西学院時代の母からの手紙	大正15年(1926)10月4日消印、11月26日消印	□
第3章 「銅鑼」に導かれて 詩集『たんぽぽ』誕生		
1 草野心平 運命の出会い		
写真 草野心平	大正14年(1925)	いわき市立草野心平記念文学館提供
草野心平からの初めての手紙	大正14年(1925)4月23日 中華民国広州 嶺南大学 (広東消印)	□
「銅鑼」創刊号	大正14年(1925)4月1日(復刻版・日本近代文学館)	山本英孝旧蔵／加東市教育委員会
草野心平からの手紙	大正14年(1925)6月3日 (広東消印)	◎
「白い夢を見る母子」原稿	大正14年(1925)6月以前	□
「銅鑼」3号	大正14年(1925)6月～8月推定(復刻版・日本近代文学館)	山本英孝旧蔵／加東市教育委員会
【「銅鑼」7号 思い出の夏】		
「銅鑼」7号	大正15年(1926)8月1日(復刻版・日本近代文学館)	山本英孝旧蔵／加東市教育委員会
写真 JR 福知山線相野駅前(兵庫県三田市)		
写真 大川瀬溪谷付近(兵庫県道75号小野藍本線 兵庫県三田市)		
写真 草野が滞在した坂本家の座敷		
草野心平、原理充雄連名の手紙	大正15年(1926)7月30日消印	◎
草野心平からの英文の手紙	大正15年(1926)10月29日	□
原理充雄からの手紙	大正15年(1926)8月29日消印	□
「銅鑼」9号	大正15年(1926)12月1日(復刻版・日本近代文学館)	山本英孝旧蔵／加東市教育委員会
坂本の相談に対する草野心平の返信	昭和2年(1927)2月2日頃 推定	◎
2 生涯唯一の詩集『たんぽぽ』		
詩集『たんぽぽ』	昭和2年(1927)9月 銅鑼社	
伊藤整 坂本遼宛葉書	昭和3年(1928)2月27日消印	◎
草野心平『たんぽぽ』序 原稿		◎
原理充雄『たんぽぽ』跋 原稿		□
エルンスト・トルレル(トラウ)作、北村喜八訳『独逸男ヒンケマン』	大正13年(1924)11月 新詩社	
浅野孟府 坂本遼宛書簡	昭和2年(1927)7月7日	◎
詩集『たんぽぽ』出版記念会案内状	昭和2年(1927)	□
詩集『たんぽぽ』出版記念会芳名帳	昭和2年(1927)11月18日	◎
草野心平「『たんぽぽ』出版前後」(「南方詩人」第二輯)	昭和2年(1927)12月1日	◎
3 小説集『百姓の話』		
小説集『百姓の話』	昭和2年(1927)9月 私家版	◎
浅野孟府画 『百姓の話』屏絵原画	昭和2年(1927)	◎
横光利一への献呈本『百姓の話』		
赤木健介 『百姓の話』の礼状	昭和2年(1927)11月14日消印	◎
個人小説誌「生活祭」1巻1号	昭和2年(1927)7月30日	
第4章 詩との別れ 前、後		
1 卒業後の進路		
進路を案じる長姉ちよからの手紙	大正15年(1926)12月10日	□
東北帝国大学法文学部聴講生の入学試験に関する通知文書	昭和2年(1927)3月23日	□
アメリカ・オハイオ州ウェスレアン大学からの手紙	昭和2年(1927)4月19日	□
「木曜嶋」創刊号	昭和2年(1927)6月30日 関西学院文学部木曜倶楽部	◎
「バリケード」創刊号	昭和2年(1927)9月1日 社会評論社	◎
2 入隊、そして母の死		
写真 姫路野砲兵第十聯隊跡		
写真 姫路野砲兵第十聯隊 営庭での火砲の手入れのもよう(絵葉書)		

兵役日記（姫路野砲兵第十聯隊第四中隊時代の日記）	昭和2年（1927）12月5日～昭和3年（1928）6月13日	□
詩「おらら」掲載の「燃林」（「南方詩人」「山びこ」合併号）	昭和3年（1928）8月15日	吉備路文学館蔵
入隊中に使用した『馬術教範』	昭和3年（1928）2月1日 兵書刊行会	◎
入隊時の挨拶状	昭和2年（1927）12月5日	◎
フランス滞在中の竹中郁からの手紙	昭和3年（1928）9月7日 フランス パリ	□
木山捷平詩集『野』序文 原稿	昭和4年（1929）1月	吉備路文学館蔵
野砲兵第十聯隊入営中の手帳に残る木山捷平詩集『野』跋の下書き		□
入隊中に送った母への手紙	昭和2年（1927）12月 推定	□
伊藤信吉編『学校詩集 一九二九年版』	昭和4年（1929）12月 学校詩集発行所	◎
【詩友との心の交流】		
木山捷平 個人詩誌「野人」4号	昭和2年（1927）11月1日	◎
木山捷平 個人詩誌「野人」5号	昭和3年（1928）1月1日	◎
木山捷平の上京を激励する手紙	昭和4年（1929）3月18日	吉備路文学館蔵
木山捷平 詩集『メクラとチンパ』献呈本	昭和6年（1931）6月 天平書院	◎
入隊中に届いた黄瀛からの手紙	昭和4年（1929）3月19日	◎
「南方詩人」特集〈黄瀛の詩と其印象〉	昭和5年（1930）9月10日	◎
猪狩満直『移住民』献呈本	昭和4年（1929）8月 銅鑼社	◎
「南方詩人」特集〈猪狩満直特集「移住民」記念号〉	昭和5年（1930）1月1日	吉備路文学館蔵
3 除隊後の苦悶 生活と文学とはがまで		
上京した木山捷平に近況を知らせる手紙	昭和4年（1929）11月4日	吉備路文学館蔵
詩「春」掲載の「宣言」	昭和5年（1930）5月1日	◎
「花嫁」	1号（昭和5年・1930年4月19日）、2号（昭和5年・1930年5月25日）、5号（昭和5年・1930年10月25日）	◎
写真 高倉輝		高知県立文学館提供
高倉輝 坂本遼宛書簡	昭和5年（1930）秋 推定	◎
参考図版 「農民文学に関する一断片 坂本遼と木山捷平」「都新聞」第3回	昭和6年（1931）7月10日	
木山捷平宛書簡	昭和6年（1931）1月5日	吉備路文学館蔵
大阪朝日新聞社京都支局 新聞記者並ニ写真撮影者之証	昭和10年（1935）頃 推定	◎
京都支局時代の取材メモ		□
4 二度の従軍取材		
自身による従軍記者記録		◎
写真 蒙古のテムチュクドンロブ（徳王）と	昭和12年（1937）	◎
朝日新聞社編『上海北支戦線美談』第三輯	昭和12年（1937）12月	◎
従軍先の張北から家族に宛てた手紙	昭和12年（1937）9月7日	□
「事変美談 酒井兵团本部」記事原稿	昭和12年（1937）	□
北支戦線報告講演会 チラシ	昭和12年（1937）12月16日 滋賀県長浜町 日比劇場	□
全国小学校教員大陸視察団・南下団名簿	昭和14年（1939）	◎
写真 全国小学校教員大陸視察団に同行中の坂本	昭和14年（1939）5月	◎
5 軍人として		
軍隊手帳	昭和2年（1927）12月1日発行	◎
着用していた日本軍の外套		□
写真 応召時の見送りにて	昭和16年（1941）7月	◎
写真 大阪航空隊中田隊本部にて		◎
写真 照空機及び聴音機隊による防空（絵葉書）		
第5章 よみがえる詩心 ライフワーク「きりん」		
参考図版 タカクラ・テル「梅の花」（「毎日新聞 大阪版」）	昭和22年（1947）2月17日	
詩「夜空」（「関学芸誌」）	昭和23年（1948）5月15日 関西学院大学文芸部	□
小説「たんぼ」 （「文学雑誌」）	昭和24年（1949）6月1日	
写真 詩「遺書」に登場する今寺（吉祥寺）の登り口		
詩「遺書」（冒頭「私は応召中に」）原稿断片	昭和27年5月 角川書店（『現代詩集 歷程篇』所収）	□
初めて参加した「きりん」3号	昭和23年（1948）5月1日	
児童文学「ヒヨコと少年画家」（「きりん」）	昭和23年（1948）10月1日	
写真 朝日新聞大阪本社近くにて		
児童文学「こじき詩人」（「きりん」）	昭和26年（1951）2月1日	□
坂本が特に愛した投稿作品「牛とぼく」（「きりん」）	昭和27年（1952）1月1日	□
児童文学「再会」第1回（「きりん」）	昭和36年（1961）6月1日	□
読者の子どもたちによる「きりん」表紙		□
異例の編集を押し通した「きりん」86号	昭和30年（1955）9月1日	□
「第1回きりん展」の展示風景が用いられた「きりん」表紙	昭和31年（1956）3月1日	□
児童文学「かみさま」最終回（「きりん」）	昭和34年（1959）10月1日	□
『虹・まっ白いハト』	昭和40年（1965）1月 理論社	
『きょうも生きて（第一部） 父のない家』『きょうも生きて（第二部） 天のふうせん』	昭和34年（1959）11月、12月 東都書房	
『きょうも生きて』の読者からの手紙	昭和38年（1963）1月23日	◎

『きょうも生きて』厚生大臣賞〈児童福祉文化賞〉楯	昭和 35 年 (1960)	◎
『こどもの綴方・詩』	昭和 28 年 (1953) 5 月 20 日 創元社	
朝日放送編・坂本遼選評『エンピツくらぶ』	昭和 32 年 (1957) 12 月 三陽社	□
大阪市教育委員会婦人教育課編・坂本遼評『主婦の作文集 茶の間の机で』第 8 集	昭和 39 年 (1964) 4 月	◎
写真 愛用のカバン		□
第 6 章 たんぽぽ忌 詩情は時を越えて		
写真 坂本遼詩碑「春」と草野心平揮毫「傑れた農の詩人 坂本遼の碑」		
写真 第 5 回たんぽぽ忌に出席した草野心平、竹中郁ら（坂本遼詩碑の前にて）	昭和 50 年 (1975) 5 月 25 日	
写真 坂本家墓地		
第 5 回たんぽぽ忌の際に草野心平が寄せた揮毫	昭和 50 年 (1975) 5 月 25 日	◎
妻婦美子の最後の年賀状	昭和 52 年 (1977) 1 月 1 日	◎
たんぽぽ忌 記念品（焼き物、石絵、置時計、敷物）		
写真 晩年の坂本と婦美子		
姫路混声合唱団 組曲「たんぽぽ」楽譜	昭和 54 年 (1979) 制作、同年 11 月 9 日初演（姫路市民会館）	姫路混声合唱団蔵
関西学院原田の森会「竹中郁・坂本遼関学時代展」チラシ	昭和 60 年 (1985) 3 月 8 日～21 日 於・ジュンク堂書店サンバル店	◎
坂本遼生誕百年記念「「たんぽぽ」祭 2004 in Tojo」チラシ	平成 16 年 (2004) 5 月 16 日 於・東条コスミックホール	
山本英孝著『坂本遼詩集 圭よ たつしやか』	昭和 53 年 (1978) 7 月 大阪出版	
山本英孝著『坂本遼詩集補遺 圭よ たつしやか』	昭和 54 年 (1979) 8 月 大阪出版	
山本英孝編『坂本遼児童文学集 かきおきびより』	昭和 57 年 (1982) 8 月 駒込書房	
山本英孝著『おかん この切実なるものの結晶—たんぽぽの詩人 坂本遼序論』	平成 7 年 (1995) 3 月 鹿峯社	
写真 加東市東条図書館 坂本遼展示コーナー		
生家 平面図	令和 6 年 (2024) 平尾工務店作成	
竹中郁が坂本に寄せた追悼文	昭和 45 年 (1970) 5 月 27 日 推定	◎
高橋夏男著『おかんのいる風景 たんぽぽの詩人坂本遼断章』	昭和 61 年 (1986) 神文書院	
高橋夏男著『流星群の詩人たち 草野心平と坂本遼・原理充雄・木山捷平・猪狩満直』	平成 11 年 (1999) 2 月 林道舎	
高橋夏男著『西灘村の青春 原理充雄 人と作品』	平成 18 年 (2006) 1 月 風来舎	
旧・加東市立東条西小学校校歌 作詞原稿		□
生家に残る愛用の品々（机、ランプ、置時計など）		◎
生家前の詩碑「春」（加東市横谷）の拓本		◎

2 第3回藤原正彦姫路文学館長講演会

我が国のオピニオンリーダーの一人である藤原正彦姫路文学館長（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）が、現在の日本社会、日本文化について講演するもの。

日 時 令和6年6月8日（土） 午後1時30分～3時

会 場 姫路キャスパホール

参加者 300人

演 題 「政治と国民」

内容等 福沢諭吉の「この人民ありてこの政治あるなり」という言葉から、政治が国民の写し鏡であることに言及。わたしたち国民は、鎖国時代に来日した外交官ハリスや明治期の大森貝塚発掘で知られる動物学者モースらが「喜望峰以東で最も優れた人民」「世界で最も勤勉で礼儀正しく清潔な国民」などと評した日本人の精神性に立ち返るとともに、問題の核心を見定める冷静な眼をもって国家の当事者としての選択を行っていくべきである、と説いた。



4 第26回司馬遼太郎メモリアル・デー

現代日本を代表する作家であった司馬遼太郎の業績を顕彰するために、毎年司馬の生誕日である8月7日に開催。

講師に作家の門井慶喜氏を招き、司会はラジオ関西番組のパーソナリティを務める田名部真理氏が担当した。

門井氏は、作家としての資質、人間としての資質において司馬遼太郎と菊池寛の二人は、似通ったところがあると指摘し、以下のように話された。

「菊池は『文藝春秋』を創刊し、文藝春秋社の社長となっても生涯作品を書き続け、人気は高く、戦後の司馬遼太郎のようだった。菊池の書く小説は、文壇からテーマ小説と悪口をいわれた。テーマ小説は、人の心理のあやふやさを描いていく。司馬は、系譜として菊池の執筆していたテーマ小説、つまり人間の俗な部分、我々と同じ人間が歴史の中にいるという小説を書いた。その点で、まさに司馬は菊池の一種文学的後継者といえる。」

また、二人とも新聞記者の経験者だ。「文藝春秋」が同人誌から総合雑誌となれたのは、菊池が時事新報の社会部記者だったことと無関係ではない。時事は瞬間を、文芸は永遠をめざすが、司馬においては、扱う事件は古びても司馬の発言は古びない。瞬間をめざす時事問題、永遠をめざす文学。この両者を合わせて打ち出すことができたのは、戦前の菊池寛であり、戦後の司馬遼太郎である。」

ラジオ関西が1時間の特別番組に編集し、8月20日（火）午後6時から放送した。

全記録を「姫路文学館紀要 No.28」に収録している。

日 時	令和6年8月7日（水） 午後1時30分～3時
会 場	姫路文学館 講堂
協 賛	公益財団法人司馬遼太郎記念財団
参加者数	200人
内 容	講演：門井慶喜（作家） 「司馬遼太郎と菊池寛」



門井慶喜氏

5 第10回藤原正彦エッセイコンクール

エッセイストとしても人気の高い当館の藤原正彦館長（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）が「読書」とともに推奨する「書くこと」の大切さを伝えるため、平成27年度に創設した。「生きることとは創ること」という藤原館長の言葉をキャッチフレーズに、何気ない日常、出会った人や書物など、心のどこかに宿り自分自身をつくり出しているものを見つめ、考え、文章にする機会を全国に発信するものである。

入賞作品は、表彰式において配布する作品集（冊子）や、姫路文学館ホームページに掲載。また、各部門の最優秀作は文化雑誌「バンカル」135号（令和7年3月 姫路市文化国際交流財団発行）でも紹介した。

■賞の概要

(1) 応募規定

対象は中学生以上、テーマは自由、400字詰め原稿用紙5枚以内。日本語で書かれた自作で、未発表のものに限る。令和6年9月18日〆切。

(2) 審査員

姫路文学館館長 藤原正彦（数学者・作家・お茶の水女子大学名誉教授）

(3) 賞

各部門とも〈最優秀賞〉〈優秀賞〉〈佳作〉各1編。賞状、藤原正彦館長のサイン入り著書と副賞を贈呈。
〔副賞〕

	最優秀賞	優秀賞	佳 作
中学生部門	図書カード1万円分	図書カード5千円分	図書カード2千円分
高校生部門	図書カード3万円分	図書カード1万円分	図書カード5千円分
一般部門	10万円	3万円	1万円

■受賞作及び受賞者

※学年、職業は発表日（令和6年12月20日）時点

【中学生部門】

最優秀賞 「絵空事の世界」小池七海（兵庫県 明石市立衣川中学校2年）

優 秀 賞 「祖父の涙」中谷璃子（兵庫県 姫路市立琴陵中学校2年）

佳 作 「十三歳の私達」安賀奈穂（兵庫県 小林聖心女子学院中学校2年）

【高校生部門】

最優秀賞 「日常のかけら」杉本英（兵庫県立姫路西高等学校2年）

優 秀 賞 「街の「小場所」が残してくれたもの」足立美咲（広島県 盈進高等学校1年）

佳 作 「十九歳の母と私」桂凜香（兵庫県 姫路市立琴丘高等学校1年）

【一般部門】

最優秀賞 「母の終活」山本築（図書館司書 福岡県福岡市）

優 秀 賞 「何もない春」吉沢慎一郎（カメラマン・観光ライター 大阪府河内長野市）

佳 作 「地下鉄のクリスマス」茂木麻予（自営業 アメリカ ニューヨーク）

■応募点数

2,276点（中学生部門 333点、高校生部門 1,339点、一般部門 604点）

■表彰式

日 時 令和7年1月19日（日）午後1時30分～3時

会 場 姫路文学館 講堂

内 容 表彰式、各部門最優秀作（計3点）の朗読（音訳ボランティア サークルさえずり 原田香代

さん、多田和子さん)、藤原正彦姫路文学館長による講評・講演

※一部の受賞者はリモートで出席

参加者 100名



受賞者と、藤原正彦館長(後列右)、清元秀泰姫路市長

6 第13回「世界にひとつの絵本づくり」

二回の授業でおはなしづくりから製本まで一から自分だけの絵本をつくり上げる、夏休み恒例のワークショップ。完成した絵本を大きなスクリーンと講師の読み聞かせで鑑賞する作品発表のコーナーも好評であった。

講 師 成広のり子 (画家・絵本作家)
会 場 姫路文学館 講堂
日 時 令和6年7月27日(土)、8月3日(土)
●午前の部 午前10時～12時
●午後の部 午後2時～4時
対 象 小学1年生～中学3年生
参加費 1人(1冊)500円
参加者 計53名と保護者



7 第12回KOTOBAMAまつり

会 期 令和6年7月13日(土)～令和7年3月15日(土) 全3イベント
会 場 姫路文学館 講堂

幅広い年齢層の参加者がさまざまなイベントを通して「ことば」との出会いを楽しむことのできる恒例行事。

■ 琴丘高生の案内で江戸時代のガイドブック『名所図会』にトラベル！

江戸時代に旅行案内本として人気のあった『花洛名勝図会』の「東山之部」に登場する寺社の歴史や名所旧跡を、姫路市立琴丘高等学校図書文芸部の学生が解説。解説の後、参加者は、スクリーンで和綴じの方法について説明を受けながら、ノート作りに挑戦した。

日 時 令和6年7月13日(土)
午後2時～2時40分
出 演 姫路市立琴丘高等学校図書文芸部
参加者 40人



姫路市立琴丘高等学校図書文芸部

■ 「兵庫県立大学環境人間学部 卒業設計展 “あたりまえ”とはなにか」

兵庫県立大学環境人間学部学生による卒業設計展の4回目。建築模型を展示するとともに、設計の趣旨や意図、活用のイメージも紹介し、学生が作品に込めた想いを自身の言葉で伝えた。同学部2年生から4年生の設計演習の優秀作品も展示。

会 期 令和7年2月15日(土)～2月21日(金)
協 力 兵庫県立大学環境人間学部
来場者 250人



展示風景

■ やぎたみこさんトークショー「思ったら絵本作家」

人気シリーズ「ほげちゃん」で知られる姫路市出身の絵本作家やぎたみこさんをお迎えし、絵本作家となるまでの歩みや、絵本制作の資料として作った家や公園の模型など様々な造作物のスライドを見せていただき、作品誕生の裏話をお聞きました。

日 時 令和7年3月15日(土)
午後2時～3時30分
出 演 やぎたみこ(絵本作家)
参加者 80人



やぎたみこ氏

8 第16回如月まつり

地域との連携として、文学館東隣の男山八幡神社厄神祭の開催日にあわせて開催。常設展を無料開放し、姫路文学館友の会ボランティアによる常設展ガイド、古本市などを開催した。

日 時 令和7年2月18日（火）・19日（水） 午前10時～午後5時
会 場 姫路文学館
来場者 642人

○常設展（企画展）無料開放

企画展「生誕120年記念 詩人坂本遼展」（北館）を開催。

○文学館クイズラリー

こども用・おとな用2種類のクイズを作成し、答えを探しながら見学できるようにした。

○常設展ボランティアガイド

姫路文学館友の会ボランティアの展示ガイドグループ5人が担当した。

○おはなし会

図書室（南館）前にて、姫路文学館友の会ボランティアのおはなし会グループ4人が絵本の読み聞かせを行った。

○古本市（南館さんかくギャラリー）

市民から提供された古本を50円～100円で販売。



おはなし会



古本市

9 講座・読書会

(1) 古典文学講座「源氏物語の世界」

講 師 中川正美（梅花女子大学名誉教授）
会 場 姫路文学館 講堂
日 時 原則として第2金曜日 午前10時30分～12時
受講料 （10回通しで）6,000円
受講者 109人

日程と内容

令和6年4月12日（金）	女三宮の垣間見後、人々の動静
5月10日（金）	住吉参詣
6月14日（金）	六条院の女楽1
7月12日（金）	六条院の女楽2
9月13日（金）	紫上発病
10月11日（金）	柏木侵入
11月8日（金）	柏木・女三宮の動揺
12月13日（金）	密事露見
令和7年1月10日（金）	朱雀院五十賀試楽
2月14日（金）	柏木病悩

(2) 文学思想講座「よりよく自己を生きるために 思想と言葉の百花繚乱」

講 師 岡田勝明（姫路獨協大学名誉教授）
会 場 姫路文学館 講堂
日 時 原則として第1木曜日 午前10時～11時30分
受講料 （10回通しで）6,000円
受講者 118人

日程と内容

令和6年4月4日（木）	國分功一郎 千葉雅也
	『言語が消滅する前に』 …言語の力の衰退がもたらすもの
5月2日（木）	赤瀬川原平 大平健
	『文学学校』 …文をめぐる精神科医と文学者の交差
6月6日（木）	小林秀雄 岡潔
	『人間の建設』 …情緒をいかにはぐくめるのか
7月4日（木）	八木誠一 秋月龍珉
	『無心と神の国』 …あるがままの生き方とは
8月1日（木）	鈴木大拙 梅原猛ほか
	『曾我量深対話集』 …真の宗教性とは

- 10月 3日(木) 上田閑照 八木誠一
『イエスの言葉／禅の言葉』 …この世界はどこからどこへ行くのか
- 11月 7日(木) 河合隼雄 鷺田清一
『臨床とことば』 …哲学と心理学の横綱相撲
- 12月 5日(木) 鷺田清一 大森荘蔵ほか
『養老孟司対談集』 …心（脳）と身体の関わりについて
- 令和7年 1月 9日(木) 中村雄二郎 丸谷才一ほか
『日本語の探究 大野晋日本語対談集』 …言語の諸層を目の当たりにする
- 2月 6日(木) 白川静 梅原猛
『呪の思想』 …神と人間との間

(3) 市民名作講座「近現代文学中の名作」に挑む

講 師 菅原美文（近現代文学を読む会主宰）
会 場 姫路文学館 会議室
日 時 原則として毎月第3木曜日 午前10時～11時50分
参加者 13人

課題図書

- 令和6年4月18日(木)『伊勢物語』
高樹のぶ子『小説伊勢物語 業平』日経BPM
- 5月16日(木) 松本清張『昭和史発掘7～13』文藝春秋
筒井清忠『敗者の日本史19 二・二六事件と青年将校』吉川弘文館
- 6月27日(木) 柳田國男『遠野物語』新潮文庫ほか
ガルシア・マルケス『百年の孤独』『予告された殺人の記録』新潮社
- 7月25日(木) 野上弥生子『迷路』岩波文庫ほか
- 8月29日(木) バーバラ・タックマン『八月の砲声』ちくま学芸文庫
奈良岡聡智
『「八月の砲声」をきいた日本人 ー第一次世界大戦と植村尚清「ドイツ幽閉記」』
千倉書房
ローベルト・ゲルヴァルト
『敗北者たち ー第一次世界大戦はなぜ終わり損ねたのか 1917-19』
みすず書房
- 9月26日(木) モンテーニュ『エッセー』岩波文庫ほか
- 10月17日(木) 永井荷風『断腸亭日乗』岩波書店
ジョセフ・C・グルー『滞日十年』ちくま文庫
マックス・ブロート『カフカの日記 ー1910-1923』みすず書房
- 11月28日(木) ゲルツェン『過去と思索』岩波文庫
- 12月19日(木) 浜田寿美男『袴田事件の謎 ー取調べ録音テープが語る事実』岩波書店
団藤重光『死刑廃止論』有斐閣
- 令和7年1月23日(木) 丸谷才一『横しぐれ』講談社学術文庫ほか

(4)「司馬遼太郎の「夏草の賦」「戦雲の夢」「街道をゆく」などを読む」読書会

南館・司馬遼太郎記念室において常設展示している司馬遼太郎の作品を読む読書会。参加者が、課題図書の内容にそって考えを自由に述べあい、作品の理解を深めることを目的とする。

令和6年度は、戦国時代の武将、長曾我部元親を描いた「夏草の賦」と息子・盛親を描いた「戦雲の夢」、紀行文集「街道をゆく」、対談集「日本人の顔」などの作品を取り上げた。

会 場 姫路文学館 会議室

日 時 原則として毎月第2土曜日 午前9時30分～12時

参加者 20人

課題図書

- 令和6年5月11日(土) 『ひとびとの跫音』
- 6月8日(土) 『街道をゆく24 近江散歩、奈良散歩』
- 7月13日(土) 『夏草の賦』
- 8月10日(土) 『街道をゆく41 北のまほろば』
- 9月7日(土) 『戦雲の夢』
- 10月12日(土) 『街道をゆく19 中国・江南のみち』
- 11月9日(土) 『日本人の顔』
- 12月14日(土) 『司馬遼太郎が考えたこと1』
- 令和7年2月8日(土) 『城をとる話』
- 3月8日(土) 『歴史を紀行する』

10 博物館実習・「トライやる・ウィーク」

■博物館実習

学芸員資格取得の講座を持つ下記の大学からの依頼をうけ、次のとおり実施した。

期 間 令和6年8月1日（木）～6日（火） 計5日間

実習生 神戸松蔭女子大学 計2人

	午 前		午 後	
8月1日 （木）	9:30～10:00 オリエンテーション 課題（企画展立案）説明	会議室	13:00～13:30 文学館活動概説 前半	会議室
			13:30～15:30 ガイドボランティア 活動見学	館内
	10:00～11:00 館内（バックヤード）見学	館内	15:30～16:30 文学館活動概説 後半	会議室
	11:00～12:00 企画展の実務の流れ	会議室	16:30～17:00 絵本づくりワークショップ準備（パーツづくり）	
8月2日 （金）	9:30～10:30 絵本づくりワークショップ準備 （パーツづくり）	館内	13:00～14:30 キャプション、企画展リード文等の作成について 解説と実作	会議室
	10:30～12:00 掛軸・卷子取り扱い 資料の状態チェック、調書の実務	会議室	14:30～15:30 絵本づくりワークショップ会場設営	
			15:30～17:00 企画展構想 自習	
8月3日 （土）	9:30～12:00 絵本づくりワークショップ補助	講堂	13:00～16:30 絵本づくりワークショップ補助	講堂
8月4日 （日）	9:30～11:00 南館収蔵庫清掃及び点検口確認作業	講堂	13:00～15:30 北館収蔵庫清掃及び点検口確認作業	講堂
	11:00～12:00 中性紙箱組立作業等		15:30～17:00 企画展構想自習	
8月6日 （火）	9:30～12:00 企画展構想 発表準備 （発表用資料のコピー等）	会議室	13:00～14:00 課題（企画展立案）の発表	会議室
			14:00～15:00 実習ノートまとめ	
			15:00～17:00 発送作業補助	

■トライやる・ウィーク

兵庫県が平成10年度から県内の中学2年生を対象として実施している地域での体験活動週間。令和6年度は、下記の中学校から2人の生徒を受け入れた。生徒は、館職員の指導のもと、図書室に設置するお薦め本の紹介パネル作成をはじめとして、資料取り扱い実技、郵送物準備作業、館ボランティアとの発送作業や、館内の清掃、受付業務など、さまざまな業務を体験した。

期 間 令和6年6月7日（金）

計4日間

実習生 姫路市立山陽中学校 2人

姫路市立灘中学校 1人

11 出前講座

実施日	出講先	内 容	講 師
4月17日	姫路南プロバスクラブ	「姫山物語」と『播磨鑑』	徳重公美学芸員
5月2日	Lively	播磨国風土記－むかしむかしのはりまのおはなし	甲斐史子副館長
5月11日	お茶の水女子大学コンピテンシー育成開発研究所 第8回国際日本学講演会 (オンライン)	『研究』と歩き回る－文学／思想を展示する－	徳重公美学芸員
8月17日	神河町公民館教室事業 成人ゼミナール	播州皿屋敷と全国のお菊さん	甲斐史子副館長
10月12日	たつのあいあい塾	安田青風の世界	竹廣裕子学芸課長
11月13日	姫路市立八幡公民館	泉鏡花『天守物語』	杉田陽子学芸員
11月22日	姫路市立飾磨橋東公民館	播磨の歌枕－飾磨を中心に	杉田陽子学芸員
12月26日	西今宿6丁目生涯クラブ	泉鏡花『天守物語』	杉田陽子学芸員
1月23日	高砂市高齢者大学	たんぽぽの詩人坂本遼の魅力	甲斐史子副館長
2月15日	太子町立歴史資料館 歴史講座	太子町出身の歌人安田青風 人と作品	竹廣裕子学芸課長
3月14日	あまかわ文庫（姫路市）	南陀楼綾繁氏とのトークショー「文学と人が出会う場所」	竹廣裕子学芸課長

12 出版活動

姫路文学館では、展覧会に際しての図録やパンフレットの制作、館報「手帖・姫路文学館」や目録、紀要の発行等を行っている。

（１）姫路文学館紀要の発行

学芸部門の研究成果を世に問う場として、平成９年度より紀要を発行している。（年刊）

『姫路文学館紀要 No.28』

令和７年３月31日 編集・発行／姫路文学館

A5判 110頁 300部 ￥800

内容 〔第26回司馬遼太郎メモリアル・デーの講演、質疑応答〕

□講演「司馬遼太郎と菊池寛」門井慶喜（作家）

〔論考〕「文学館談義」 玉田克宏

『文学館を回顧する 姫路文学館紀要 特別号 No.2』

電子書籍にて刊行 令和７年３月31日 編集・発行／姫路文学館

A5判 201頁 ホームページよりダウンロード可

内容 論集・文学館を回顧する 玉田克宏

「文学館談義」

「文学館のライブラリーのあれこれ」

「資料整理と情報システム」

「リニューアル余話」

（２）館報「手帖・姫路文学館」の定期発行

年４回 令和６年４月１日（第131号）

令和６年10月１日（第133号）

A4判 ８頁 非売品

令和６年７月１日（第132号）

令和７年１月１日（第134号）



手帖 姫路文学館 131号



132号



133号



134号

資料概要

1 資料収集状況

(1) 令和6年度収集資料数

※登録番号を採番した（整理をおこなった）資料の数。

種別	購入	寄贈	制作	寄託	その他	計
書籍・雑誌	314	577	8		3	902
原稿	5	446		3	3	457
書簡	3	4,103			1	4107
書画・墨蹟	1	70			10	81
遺品						
その他	1	2,666		34	6	2707
写真		585			1	586
映像・音声		7				7
レプリカ						
計	324	8,454	8	37	24	8,847

資料総数 約18万点

主な新資料

〔寄贈〕

木割大雄氏 赤尾兜子、俳誌「渦」関連資料 74点
 谷口元博氏 永田耕衣自筆書画 35点
 皆川燈氏 永田耕衣他俳人 清水径子宛書簡 122点
 田堀雅尚氏 奥田則隆他 和歌短冊 3点
 山野博史氏 柳田國男関連書籍 11冊
 藤居健氏 横溝正史書籍 353点
 武田良彦氏 三上参次書幅 1点
 高橋順子氏 車谷長吉遺品、原稿ノート類、書画、書簡等 2191件

〔購入〕

池内紀草稿「同時代人の肖像」など27篇、その他資料
 藤原惺窩掛軸
 『神戸のモダニズム 1』（ゆまに書房）
 佐多稲子原稿「私の文章作法6 自分に取り組んで」
 三木露風詩幅「ふるさとの～」
 木山捷平原稿「引き入れてせし人の」
 佐多稲子原稿「「樹影」の中のまちがいの言葉」

(2) 情報検索システム登録件数 (令和7年5月31日現在)

種別	件数
書籍	72,737
雑誌	52,961
書簡	14,729
書画・遺墨	2,060
原稿	4,881
写真	1,085
映像・音声	1,053
その他	17,209
文人基本データ	327
デジタルアーカイブ	1,437
絵本・児童書	2,140
計	170,619

システム開発 株式会社ハナテックコンピュータシステム (旧・環境総合研究所)

2 協力者一覧（50音順 敬称略）

【個人】

合田雅代	明石久美子	赤松 昇	有本俱子	飯泉健司	以倉紘平	石井正己
石川 求	井出和枝	今井 豊	今村欣史	上野一孝	植村初子	上村亮二
大谷司郎	大橋毅彦	大野とくよ	小澤紘司	小畑庸子	勝木礼奈	川涯利雄
川口外狼	香山雅代	木割大雄	楠田立身	小坂忠弘	近藤健史	佐々文章
佐藤岳俊	関 考人	高島慎助	高橋順子	高橋夏男	武田良彦	谷口元博
田堀雅尚	玉井洋子	田宮尚樹	為広恵子	辻本康夫	津山邦寧	東海晴美
時里二郎	徳永勲保	とし総子	寺尾智史	中永公子	中村猛虎	夏石番矢
難波正司	西村麒麟	長谷川啓代	原 陽一郎	樋口大祐	福原美江	藤居 健
増田恒男	増田まさみ	松本和子	松本正昭	茉莉亜まり	皆川 燈	宮尾 彰
宮島光志	宮本久雄	森崎憲司	山田英子	山野博史	山本文子	渡部洋児

【法人】

青森県立郷土館	赤磐市教育委員会	明石市立天文科学館	明石市立文化博物館	秋田県立博物館
赤穂義士顕彰会	赤穂市教育委員会	赤穂市立美術工芸館田淵記念館	赤穂市立歴史博物館	あさご芸術の森美術館
旭川市井上靖記念館	芦屋市谷崎潤一郎記念館	梓俳句会	尼崎芸術文化協会	尼崎市文化振興財団
尼崎市立歴史博物館田能資料館	イカロス出版	石川近代文学館	石川県西田幾多郎記念哲学館	石川県立美術館
石坂洋次郎文学記念館	泉鏡花記念館	一茶記念館	印南野半どんの会	井上靖記念館
井上靖記念文化財団	茨木市立川端康成文学館	いぶき発行所	いわき市立草野心平記念文学館	岩手県立博物館
印刷博物館	愛媛県立美術館	特定非営利活動法人絵本・児童文学研究センター	円虹発行所	大洗町幕末と明治の博物館
大方あかつき館	大倉精神文化研究所	大阪国際児童文学振興財団	大阪俳句史研究会	大阪歴史博物館
大田区立龍子記念館	大原富枝文学館	岡崎美術博物館	岡田武彦記念館	岡山市文学賞運営委員会
岡山大学文学部学芸員課程	小川未明文学館	小野市立好古館	香川県立ミュージアム	学習院大学上代文学研究会
学習院大学史料館	かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館	鹿児島市立美術館	風花随筆文学賞実行委員会	火星俳句会
角川文化振興財団「短歌」編集部	神奈川近代文学館	公益財団法人金沢文化振興財団	金沢文芸館	金沢湯涌夢二館
蒲郡俊成短歌大会実行委員会	嘉麻市教育委員会	軽井沢高原文庫	河井継之助記念館	河出書房新社
関西学院大学博物館	菊池寛記念館	北九州市立文学館	北九州市立松本清張記念館	京都市学校歴史博物館
京都府京都文化博物館	京都：Re-Search実行委員会	虚子記念文学館	麒麟俳句会	近代作家旧蔵書研究会
吟遊社	九年母会	(株)クマヒラ・ホールディングス	くまもと文学歴史館	群馬県立土屋文明記念文学館
現代川柳研究会	高知県越知町立横倉山自然の森美術館	高知県立文学館	神戸市立小磯記念美術館	神戸女子大学古典芸能研究センター
神戸市立博物館	神戸深江生活文化資料館	交友プランニングセンター	こおりやま文学の森資料館	越谷市立図書館野口富士男文庫
高志の国文学館	小諸市教育委員会	小諸市役所	彩雲の会	さいたま市教育委員会
さいたま文学館	斎藤茂吉記念館	坂の上の雲ミュージアム	佐佐木信綱顕彰会	山頭火ふるさと館
四季派学会東京事務所	詩人会議	児童文学同人「花」	司馬遼太郎記念館	紫明の会

勝央美術文学館	小豆島尾崎放哉記念館	ジョセフ彦記念会	白珠社	新宮市立佐藤春夫記念館
新宿区立漱石山房記念館	新葉館出版	杉発行所	鈴鹿市	成城大学民俗学研究所
西南学院大学博物館	公益財団法人世界人権問題 研究センター	世田谷文学館	世良美術館	仙台文学館
草加市立歴史民俗資料館	相馬御風記念館	太子町立歴史資料館	太地町立くじらの博物館	台東区立中央図書館
高岡市万葉歴史館	竹中大工道具館	田鶴発行所	たつの市立龍野歴史文化資 料館	蠶の会
館林市教育委員会	短歌ぐるうぶ象の会	短歌人会	筑摩書房	茅野市八ヶ岳総合博物館
遅筆堂文庫	公益財団法人ちゅうでん教 育振興財団	調布市武者小路実篤記念館	潮流詩派の会	東京都江戸東京博物館
東京都台東区中央図書館	時の川柳社	豊島区立郷土資料館	徳島県立文学書道館	徳田秋聲記念館
栃木市立文学館	鳥羽水族館	富山市郷土博物館	中原中也記念館	「鳴門の渦潮」調査研究プ ロジェクト実行委員会
新潟市会津八一記念館	新美南吉記念館	西脇順三郎を偲ぶ会	日本歌人クラブ	日本玩具博物館
日本近代音楽館	日本近代文学館	日本現代詩歌文学館	女人随筆社	公益社団法人沼津牧水会
根津美術館	野田宇太郎顕彰会	野田宇太郎文学資料館	公益社団法人俳人協会・俳 句文学館	萩原朔太郎記念・水と緑と 詩のまち前橋文学館
萩原朔太郎研究会	白圭社	原阿佐緒記念館	播磨学研究所	播磨町郷土資料館
播火編集事務局	阪急文化財団	火野葦平資料館	姫路歌人クラブ	姫路コンベンションビュー ロー
姫路市書写の里・美術工芸 館	姫路市文化国際交流財団	姫路市立城内図書館	姫路市立水族館	姫路市立美術館
姫路文学会	姫路文学人会議	兵庫県歌人クラブ	兵庫県現代詩協会	兵庫県立美術館
兵庫県立兵庫津ミュージア ム	兵庫県立人と自然の博物館	兵庫県立歴史博物館	ひょうご歴史研究室	風琴の会
福井県ふるさと文学館	福岡市総合図書館文学・映 像課	福岡市文学館	福崎町立神崎郡歴史民俗資 料館	福崎町立柳田國男・松岡家 記念館
ふくやま文学館	公益財団法人ブルボン吉田 記念財団	文学園社	文京区立森鷗外記念館	文京ふるさと歴史館
文藝春秋	防災100年えほんプロジェ クト事務局	公益財団法人北海道立文学 館	町田市立自由民権資料館	松の花俳句会
松山市立子規記念博物館	三浦綾子記念文化財団	美加志保短歌会	一般社団法人岬の分教場保 存会	三鷹市山本有三記念館
水と緑と詩のまち前橋文学 館	美作学術文化振興財団	宮柊二記念館	武蔵野書院	室生犀星記念館
繻の木俳句会	森鷗外記念館	焼津小泉八雲記念館	やまぐに俳人会	大和文華館
山梨県立文学館	やまなし文学賞実行委員会 事務局	与謝野晶子倶楽部	吉村昭記念文学館	立命館大学国際平和ミュー ジアム
ロマネコンティ俳句ソシ エテ	和歌山市	早稲田大学坪内博士記念演 劇博物館		

3 文学館資料の貸出状況

貸 出 先	展 覧 会 名 等	貸出期間等	資 料 名
たつの市立龍野歴史 文化資料館	揖保川の土産～日本一をはぐ くんだ暴れ川の歴史～	令和6年10月5日 ～12月8日	『播磨国風土記』（複製）

4 文学館資料の出版物等掲載状況

掲載許可先	掲載番組・書籍等	提供資料・期間等
河出書房新社	春日ゆら著『夏目漱石解体全書』（増補版）	和辻哲郎肖像写真 ※画像データ提供
杉並区立郷土博物館	準常設展「杉並文学館 井伏鱒二と阿佐ヶ谷 文士 特集展示：飄逸の作家木山捷平」	木山捷平写真 2点 ※画像データ提供
本山町立大原富枝文学館	俳句の道展「暮石と耕衣」	永田耕衣肖像写真 1点 ※画像データ提供
晶文社	『吉本隆明全集 38巻』	吉本隆明岸上大作宛書簡 3通 ※画像データ提供
徳島県立文学書道館	瀬戸内寂聴記念室中央展示「寂聴と俳句」	木山捷平肖像写真 1点 ※画像データ提供

運 営 管 理

1 利用状況

(1) 入館者数

令和6年度（2024年度）常設展観覧者数

〔単位：日、人〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	26	27	26	26	28	25	27	26	20	22	23	25	301
一般	388	940	1,179	573	802	785	875	1,081	137	201	216	306	7,483
大・高	16	38	55	35	55	32	36	46	5	11	22	27	378
中・小	22	28	44	114	143	99	83	113	4	6	10	20	686
団体一般	243	863	1,036	1,017	1,594	939	1,042	1,144	60	153	121	206	8,418
団体大高	2	21	31	17	51	59	15	34	2	2	1	7	242
団体中小	17	55	76	173	291	145	76	178	33	1	339	3	1,387
その他	203	390	614	909	1,488	571	576	841	236	82	408	136	6,454
合計	891	2,335	3,035	2,838	4,424	2,630	2,703	3,437	477	456	1,117	705	25,048

令和6年度（2024年度）企画展観覧者数

〔単位：人〕

企画展	12月7日～3月30日 85日	合計 開催日数85日
	生誕120年記念 詩人坂本遼展	
一般	827	827
大学生・高校生	64	64
中学生・小学生	40	40
団体 一般	530	530
団体 大学生・高校生	12	12
団体 中学生・小学生	344	344
招待等	843	843
幼稚園以下	12	12
合計	2,672	2,672

令和6年度（2024年度）特別展観覧者数

〔単位：人〕

特別展	4月27日～6月23日 51日	7月6日～9月1日 51日	9月14日～11月24日 62日	合計 開催日数164日
	大乙嫁語り展	画業50年のあゆみ 黒井健絵本原画展	石黒垂矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ	
一般	2,086	1,236	2,364	5,686
大学生・高校生	89	65	91	245
中学生・小学生	70	231	260	561
団体 一般	1,970	2,664	2,842	7,476
団体 大学生・高校生	50	64	73	187
団体 中学生・小学生	143	486	368	997
招待等	951	1,652	1,362	3,965
幼稚園以下	104	848	368	1,320
合計	5,463	7,246	7,728	20,437

令和6年度文学館利用状況（再掲）	
常設展・特別企画展入館者（◎）	25,048人
施設利用者	6,962人
その他行事参加者	43,983人
合計	75,993人

◎常設展・企画展・特別展観覧者 内訳	
特別展	20,437人
常設展（企画展開催中）	3,032人
常設展（企画展なし）	1,579人

※特別展または企画展を観覧した人数は、23,469人

入館者数（貸館利用者等を含む）

年 度	開館日数 (日)	来館者数（人）		再掲：うち観覧者数（人）			
		来館者数（人）	累計（人）	観覧者数（人）	累計（人）	再々掲：うち特別企画展 （人） （日数）	
平成3年度	300	70,427	70,427	44,575	44,575	37,090	204
平成4年度	298	62,755	133,182	32,268	76,843	25,263	171
平成5年度	296	45,104	178,286	24,571	101,414	20,242	196
平成6年度	298	48,134	226,420	23,276	124,690	18,292	134
平成7年度	299	37,224	263,644	13,524	138,214	7,328	78
平成8年度	297	59,602	323,246	29,961	168,175	23,233	141
平成9年度	298	34,522	357,768	14,050	182,225	9,484	134
平成10年度	298	33,995	391,763	16,824	199,049	10,752	160
平成11年度	296	39,383	431,146	23,470	222,519	10,969	120
平成12年度	300	34,885	466,031	16,838	239,357	7,885	116
平成13年度	300	34,055	500,086	16,123	255,480	8,017	123
平成14年度	300	37,284	537,370	15,756	271,236	7,159	130
平成15年度	300	48,264	585,634	26,830	298,066	17,572	141
平成16年度	298	35,979	621,613	14,780	312,846	7,522	133
平成17年度	301	39,694	661,307	14,677	327,523	7,959	117
平成18年度	303	46,445	707,752	16,327	343,850	8,959	131
平成19年度	303	43,738	751,490	14,234	358,084	7,652	131
平成20年度	303	58,002	809,492	26,740	384,824	16,672	122
平成21年度	300	63,529	873,021	28,564	413,388	13,870	135
平成22年度	299	96,391	969,412	53,210	466,598	25,396	146
平成23年度	304	93,474	1,062,886	59,631	526,229	29,515	147
平成24年度	305	139,059	1,201,945	83,021	609,250	39,091	140
平成25年度	302	75,030	1,276,975	37,148	646,398	16,161	175
平成26年度	301	70,686	1,347,661	34,189	680,587	14,720	139
平成27年度	60	34,278	1,381,939	18,176	698,763	9,150	45
平成28年度	198	71,108	1,453,047	20,398	719,161	18,341	186
平成29年度	302	70,255	1,523,302	16,067	735,228	14,047	254
平成30年度	303	95,077	1,618,379	26,660	761,888	24,270	253
令和元年度	279	95,497	1,713,876	29,704	791,592	27,804	242
令和2年度	247	41,531	1,755,407	13,114	804,706	11,916	175
令和3年度	286	84,045	1,839,452	36,146	840,852	34,779	210
令和4年度	300	66,481	1,905,933	21,684	862,536	19,826	228
令和5年度	303	76,676	1,982,609	22,227	884,763	20,330	239
令和6年度	301	75,993	2,058,602	25,048	909,811	23,469	261

(2) 団体見学受付状況

日程		曜	団体・個人名	人数(人)	備考
令和6年	7月17日	水	船場御坊幼稚園	55人	特別展展示見学
	7月17日	水	姫路市立高岡西公民館	16人	特別展展示見学
	7月18日	木	姫路市立城乾幼稚園	13人	特別展展示見学
	7月19日	金	あかつき保育園	23人	特別展展示見学
	7月25日	木	船場御坊幼稚園	62人	特別展展示見学
	7月25日	木	姫路市立城東公民館 姫路市立野里公民館	43人	特別展展示解説、展示見学
	7月30日	火	姫路市立琴陵中学校	37人	特別展展示見学
	7月30日	火	網干保育園	51人	特別展展示見学
	7月31日	水	荒川ひまわり保育園	31人	特別展展示見学
	8月8日	木	姫路市立高岡公民館	20人	特別展展示解説、展示見学
	8月8日	木	のぎ保育園	29人	特別展展示見学
	8月22日	木	のぎ保育園	34人	特別展展示見学
	8月22日	木	荒川ひまわり保育園	34人	特別展展示見学
	8月27日	火	景福寺瑞松学院	118人	特別展展示見学
	8月28日	水	五字ヶ丘幼稚園	67人	特別展展示見学
	8月29日	木	兵庫県立香寺高等学校	34人	常設展展示見学
	8月29日	木	姫路市立東公民館	15人	特別展展示解説、展示見学
	9月27日	金	姫路市立城乾公民館	15人	特別展展示解説、展示見学
	令和7年	10月22日	火	姫路市立城乾幼稚園	14人
10月24日		木	姫路市立城東公民館 姫路市立野里公民館	29人	特別展展示解説、展示見学
10月25日		金	姫路市立高等学校PTA連合協議会	33人	常設展展示見学
11月20日		水	マリスト国際学校	50人	特別展展示見学
12月5日		木	姫路市立東光中学校	33人	常設展展示見学
2月5日		水	姫路市立増位中学校	31人	常設展展示見学
2月5日		水	加古川市立山手中学校	71人	常設展展示見学
2月7日		金	姫路市立大津中学校	130人	常設展展示見学
2月13日		木	加東市立東条学園小中学校	72人	常設展展示解説、展示見学
	2月27日	木	姫路市立飾磨中部中学校	28人	常設展展示見学

(3) 館使用者数

令和6年度(2024年度)館使用状況

〔単位：件、人〕

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合 計			
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
講 堂	午前	5	378	6	317	6	410	7	360	5	226	5	231	8	442	8	364	5	313	7	334	4	186	3	168	69	3,729	190	11,255
	午後	6	452	7	292	6	294	7	395	6	225	5	318	8	353	4	224	6	261	3	210	3	180	4	188	65	3,392		
	全日	4	134	3	135	3	208	7	506	7	678	4	322	2	120	1	80	4	755	2	164	9	447	10	585	56	4,134		
和 室	午前	7	45	2	13	3	21	3	17	1	20	4	27	7	59	14	127	5	30	4	26	2	23	4	22	56	430	149	2,667
	午後	12	77	10	55	2	9	5	40	1	4	2	17	5	68	15	83	4	42	5	36	3	9	4	23	68	463		
	全日	1	3	2	437	3	100	0	0	2	35	2	342	3	393	2	9	2	222	3	21	0	0	5	212	25	1,774		
茶 室	午前	2	7	1	7	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	5	5	1	0	0	0	2	6	1	0	15	25	53	816
	午後	5	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3	47	4	8	2	27	2	8	3	30	2	0	26	120		
	全日	0	0	1	0	0	0	0	0	1	25	2	17	3	370	2	29	2	219	1	11	0	0	0	0	12	671		
洋 間	午前	1	0	0	0	1	10	1	0	1	0	0	0	2	20	4	0	1	0	0	0	1	0	1	0	13	30	45	778
	午後	5	0	4	14	0	0	1	0	1	15	1	0	2	40	3	0	1	17	1	0	0	0	0	0	19	86		
	全日	0	0	1	0	0	0	0	0	1	10	2	17	4	363	0	0	2	219	1	10	2	43	0	0	13	662		
特 展 室	午前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	524
	午後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	524	0	0	0	0	0	0	19	524		
さんかくギャラリー	午前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	午後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
会 議 室 等	午前	2	22	4	46	3	36	4	38	3	30	5	68	3	32	4	38	3	36	2	21	2	18	4	31	39	416	81	765
	午後	3	28	2	21	1	10	4	31	0	0	4	32	1	11	4	41	5	46	4	30	2	14	2	19	32	283		
	全日	0	0	1	5	0	0	1	5	5	10	1	13	0	0	1	5	0	0	0	0	1	28	0	0	10	66		
計		53	1,146	47	1,342	28	1,098	42	1,392	35	1,278	38	1,404	52	2,318	71	1,013	62	2,711	35	871	34	984	40	1,248	537	16,805	537	16,805

(4) 資料特別観覧申請

令和6年度（2024年度）資料特別観覧状況

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		
熟 覧			件数	0件	0件	2件	0件	0件	0件	0件	2件	0件	0件	2件	0件	6件		
複 写	電子複写機使用		枚数	0件	0件	0件	92件	0件	0件	2件	8件	43件	0件	48件	0件	193件		
			金額	0円	0円	0円	2,760円	0円	0円	60円	240円	1,290円	0円	1,440円	0円	5,790円		
撮 影	新規撮影	学術用途	枚数	101件	0件	2件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	91件	22件	216件		
			金額	31,310円	0円	620円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	28,210円	6,820円	66,960円		
		そ の 他 用 途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
	フィルム貸 出 し ・ データ提供	学術用途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	
		そ の 他 用 途	枚数	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
			金額	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
合 計				31,310円	0円	620円	2,760円	0円	0円	60円	240円	1,290円	0円	29,650円	6,820円	72,750円		

(5) 出版物等販売数

令和6年度(2024年度)復刻本等売払い状況

(単位:円、冊)

図 書 名		単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額
書籍・雑誌	自叙伝の試み	2,800												1	1	2,800
	井上通泰伝	600	1			1		1					1	1	5	3,000
	芳水詩集	1,500				1									1	1,500
	明治時代の歴史学界	2,300	1												1	2,300
	猫背の散歩	1,200	2				1	1		1		1			6	7,200
	野球美談	1,500											1		1	1,500
	意志表示	470	1		1	2	1								5	2,350
	冬の宿	460		1											1	460
	自由の彼方で	1,500	1									1			2	3,000
	播磨の文学	2,300	1											1	2	4,600
	夫和辻哲郎への手紙	680			1	1								1	3	2,040
	妻和辻照への手紙(上)	800				1								1	2	1,600
	妻和辻照への手紙(下)	780				1								1	2	1,560
	播磨古歌考	3,000	1				1								2	6,000
	近代播磨文学史	1,800	1												1	1,800
	第一阿房列車	490					1								1	490
	恋うたの現在	1,300		1	1								1		3	3,900
	愛の手紙	2,200						1							1	2,200
	椎名麟三戯曲選	2,000										1			1	2,000
	紀要N03～27	800	4		7	1	5		6		2	1	1	2	29	23,200
図録	和辻哲郎展	1,000	1	1											2	2,000
	酒井宗雅展	1,000							1		1				2	2,000
	森はな展	1,200										1	1	1	3	3,600
	繚乱の季節展	1,000	1												1	1,000
	椎名麟三の昭和展	1,500	1									1	2		4	6,000
	二人のヨーロッパ展	1,200	1	1	1	1			1				1		6	7,200
	泉鏡花と「天守物語」展	1,200		2	1	1		1	2		1	1	2		11	13,200
	とっておきコレクション展	800											1		1	800
	お夏清十郎展	1,200		2						1			1		4	4,800
	あの日の子どもたち展	1,200	1					2				1	1		5	6,000
	戦後期文学のクラシック展	600	1								1		2		4	2,400
	ごんぎつねの世界	800				27	51	10	1						89	71,200
	作家車谷長吉展	1,200	1										1		2	2,400
	西脇順三郎展	800											1		1	800
	黒田官兵衛の魅力	500	1		1	1	1		1		1				6	3,000
	西山英雄装画「播磨灘物語」	1,000							1						1	1,000
	官兵衛と軍師を描いた文豪たち展	600					1								1	600
	夏目漱石 漱石山房の日々展	700		1			1						3	1	6	4,200
	姫路文学館ガイドブック	400	7	7	4	2	9	3	8	4	5	3	8	8	68	27,200
	時実新子展	600	1	1					5		1				8	4,800
	永田耕衣展	700	1		1										2	1,400
	樋口一葉展	1,000		1						1			1		3	3,000
	没後60年岸上大作展	1,000		1		1	1	1					2		6	6,000
	西山松之助展	1,000			1		1		1						3	3,000
	安田青風展	1,000			3				1				1	7	12	12,000
	阿部知二と椎名麟三展	1,100	7	1								1			9	9,900
	木山捷平展	1,000	56	1	2	1		1	1	3	1	3	2	2	73	73,000
	坂本遼展	1,000									51	34	76	87	248	248,000
合計		冊数	93	21	24	42	74	21	29	10	64	49	110	114	651	
		金額	93,570	16,960	19,250	33,400	57,360	18,800	20,900	8,000	59,500	49,900	105,700	110,660		594,000

暗唱ノート

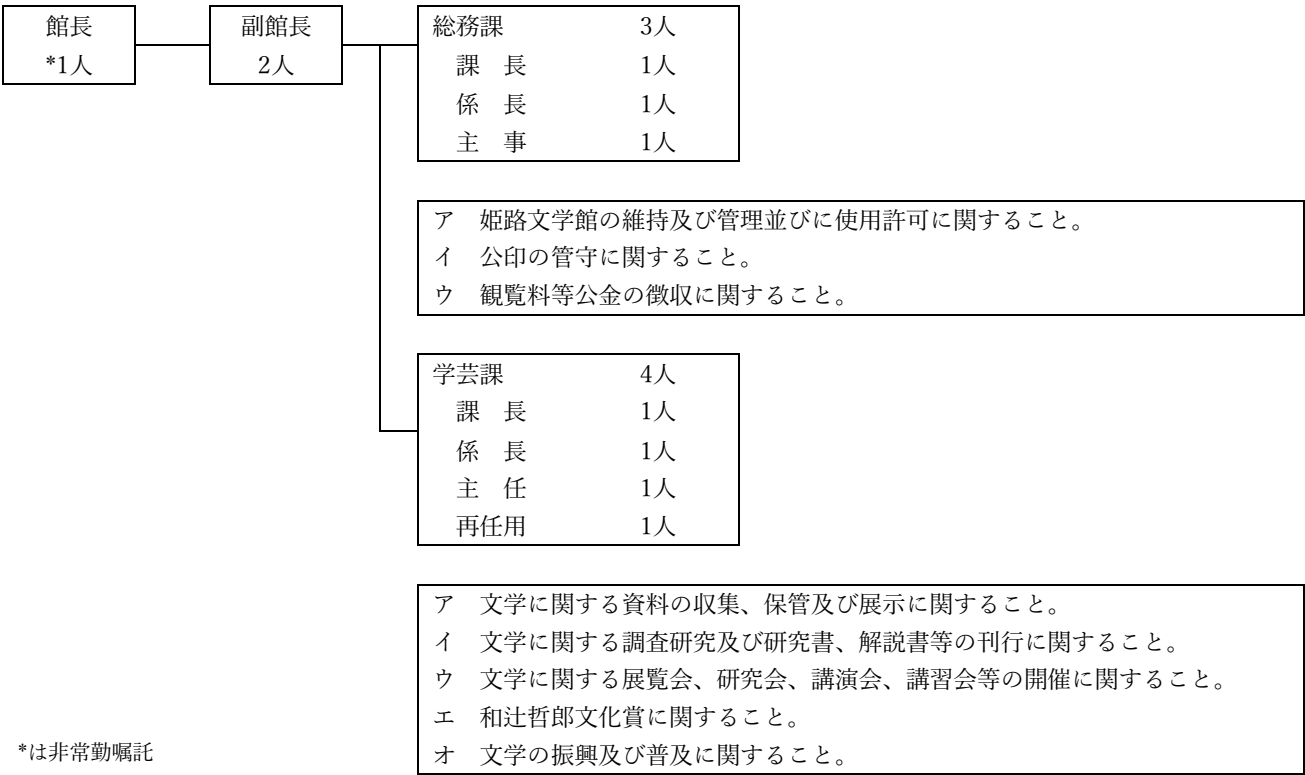
	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	冊数	金額
暗唱ノート5年	400	1	2		1	1			1		1	1		8	3,200
暗唱ノート6年	400	1	2		1				1	1	1	1	1	9	3,600
暗唱ノート基礎	400	1	2		1				1	1		2		8	3,200
暗唱ノート発展	400	1	3		2		2		1		1	1		11	4,400
合計		4	9		5	1	2	0	4	2	3	5	1	36	14,400

月別販売金額

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
復刻本	17,570	1,760	8,050	6,100	9,160	4,000	4,800	1,200	1,600	5,500	4,200	9,560	73,500
図録	76,000	15,200	11,200	27,300	48,200	14,800	16,100	6,800	57,900	44,400	101,500	101,100	520,500
グッズ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
暗唱ノート	1,600	3,600	0	2,000	400	800	0	1,600	800	1,200	2,000	400	14,400
計	95,170	20,560	19,250	35,400	57,760	19,600	20,900	9,600	60,300	51,100	107,700	111,060	608,400

2 組織および分掌事務

(令和7年3月31日現在)



*は非常勤嘱託

職員名簿

(令和7年3月31日現在)

館長	藤原正彦	副館長・学芸員	甲斐史子
副館長	北野 充	課長・学芸員	竹廣裕子
総務課課長	鎌谷弘美	係長・学芸員	杉田陽子
係長	蟹井真人	主任・学芸員	徳重公美
主事	河内佐和子	学芸員	玉田克宏

3 予算の概要

令和6年度（2024年度）一般会計歳出予算（令和6年4月1日現在）

款	5 5 教 育 費	項	3 8 文化振興費	目	4 8 文 学 館 費	(単位：千円)
節				説 明		
区 分		金 額				
7	報 償 費	1 0 , 2 8 1		文学館の管理運営等に要する経費		
8	旅 費	1 , 9 5 9		管理運営経費 1 1 7 , 9 4 3		
10	需 用 費	4 7 , 8 8 9		教育普及活動費 4 , 3 0 9		
11	役 務 費	2 , 3 8 8		和辻哲郎文化賞経費 1 0 , 5 0 7		
12	委 託 料	9 8 , 2 2 0		特別企画展経費 2 2 , 9 0 0		
13	使用料及び賃借料	5 , 0 9 6		資料収集経費 4 , 5 3 4		
14	工 事 請 負 費	0		整備事業費 7 , 0 0 0		
17	備 品 購 入 費	1 , 3 5 0		負担金 9 5		
18	負担金補助及び交付金	9 5		(加入団体会費 8 3 出席者負担金 1 2)		
26	公 課 費	1 0				
計		1 6 7 , 2 8 8		1 6 7 , 2 8 8		

令和6年度（2024年度）一般会計歳入予算（令和6年4月1日現在）

(単位：千円)

款	節	説明
使用料及び手数料	文学館使用料	1,403
	文学館目的外使用料	1,676
	文学館特別観覧手数料	69
財産収入	復刻本等売払収入	529
諸収入	文学館常設展観覧料	1,170
	文学館企画展観覧料	12,310
	文学館共益費等収入	198
	文学館教育普及活動	1,240
	事業参加負担金	
合 計		18,595

施設の概要（令和7年3月31日現在）

文学館構造・規模

敷地面積	18,003㎡
建築面積	3,174㎡
北館	1,324㎡
南館	1,360㎡
望景亭	444㎡
書斎風建物	29㎡
駐輪場	17㎡
延床面積	6,869㎡

北館	鉄骨鉄筋コンクリート造	3,815 ㎡	南館	鉄筋コンクリート造	2,564 ㎡
	●地下1階	1,067 ㎡		●地下1階	1,485 ㎡
	作業室	54 ㎡		収蔵庫	117 ㎡
	ボランティア室	17 ㎡		会議室	73 ㎡
	研究室	36 ㎡		一時保管庫	36 ㎡
	撮影室	16 ㎡		駐車場	786 ㎡
	消毒室	16 ㎡		その他	473 ㎡
	収蔵庫	412 ㎡		●1階	573 ㎡
	その他	516 ㎡		司馬遼太郎記念室	99 ㎡
	●1階	1,134 ㎡		さんかくギャラリー	76 ㎡
	エントランスホール	64 ㎡		よいこのへや	47 ㎡
	姫路城歴史ものがたり回廊	277 ㎡		カフェ	81 ㎡
	ことばの森展示室	283 ㎡		その他	270 ㎡
	その他	510 ㎡		●2階	506 ㎡
	●2階	990 ㎡		図書室	96 ㎡
	企画展示室・和辻展示室	208 ㎡		事務室	80 ㎡
	特別展示室	225 ㎡		閲覧室	39 ㎡
	体験交流ひろば①	65 ㎡		その他	291 ㎡
	体験交流ひろば②	54 ㎡			
	その他	438 ㎡	望景亭	木造平屋建瓦葺	444 ㎡
	●3階	511 ㎡		和室	131 ㎡
	講堂	250 ㎡		茶室	40 ㎡
	準備室	29 ㎡		洋間	65 ㎡
	講師控室	29 ㎡		その他	208 ㎡
	ホワイエ	58 ㎡			
	その他	145 ㎡	書斎風建物	木造平屋建瓦葺	29 ㎡
	●塔屋	113 ㎡			
			駐輪場	鉄筋コンクリート造	17 ㎡

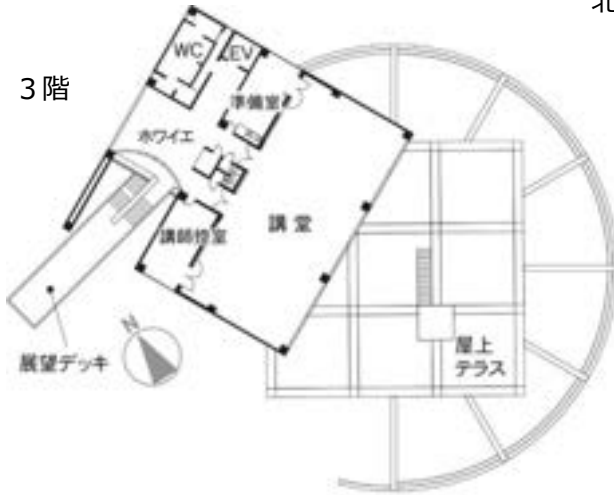
建築費（単位：百万円）	北館	南館
総額	2,605	2,568
建築工事	1,951	1,278
展示工事	550	429
用地費	104	861

大規模施設整備費（北館・南館・外構を同時に整備）（単位：百万円）

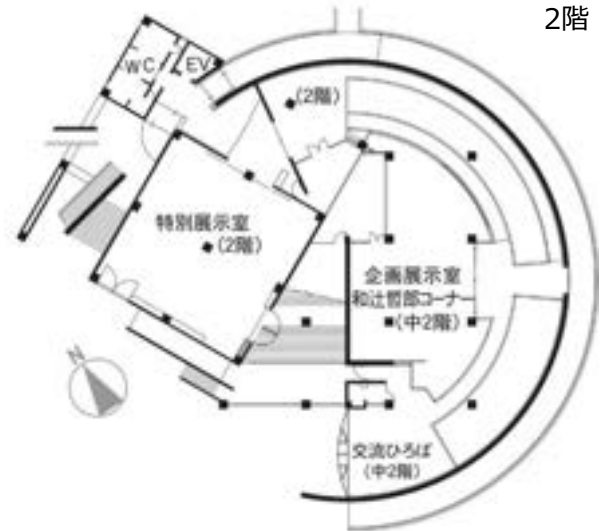
総額	1,993
大規模改修工事	1,415
展示更新制作	578

北 館

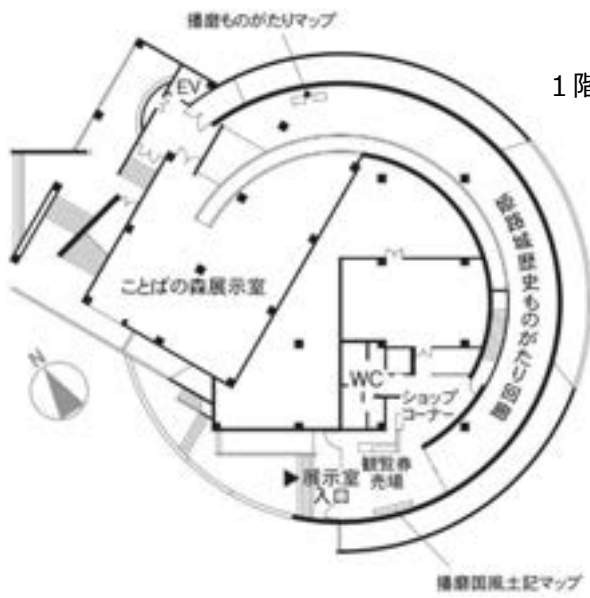
3階



2階



1階

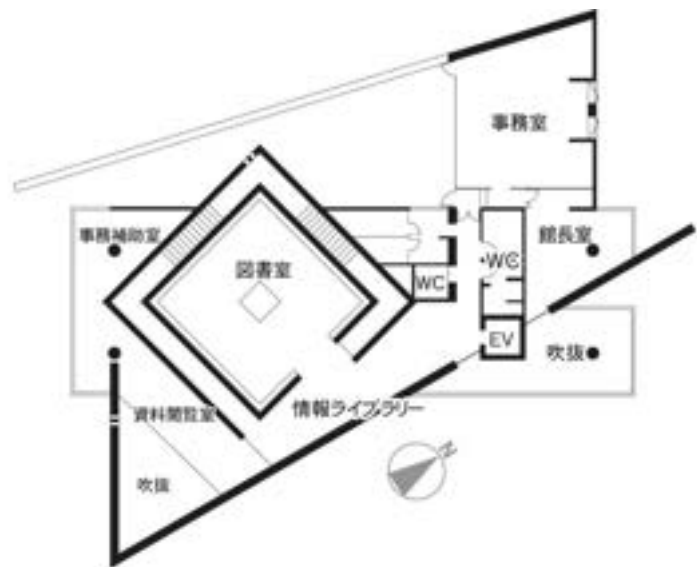


B1階

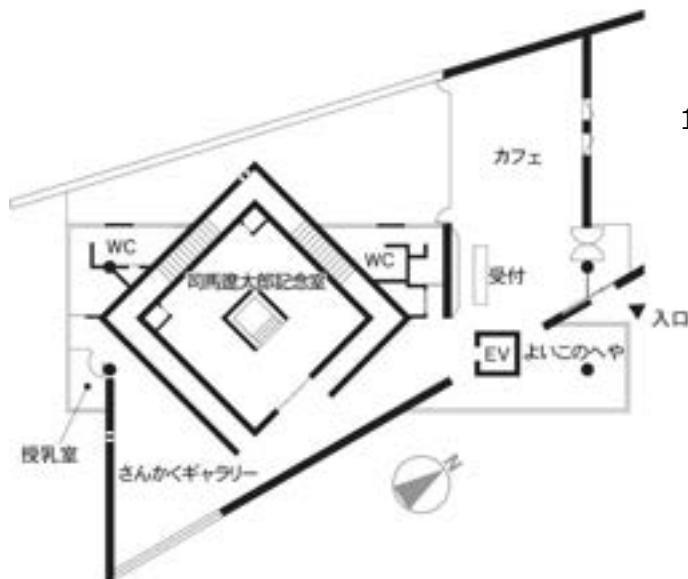


南 館

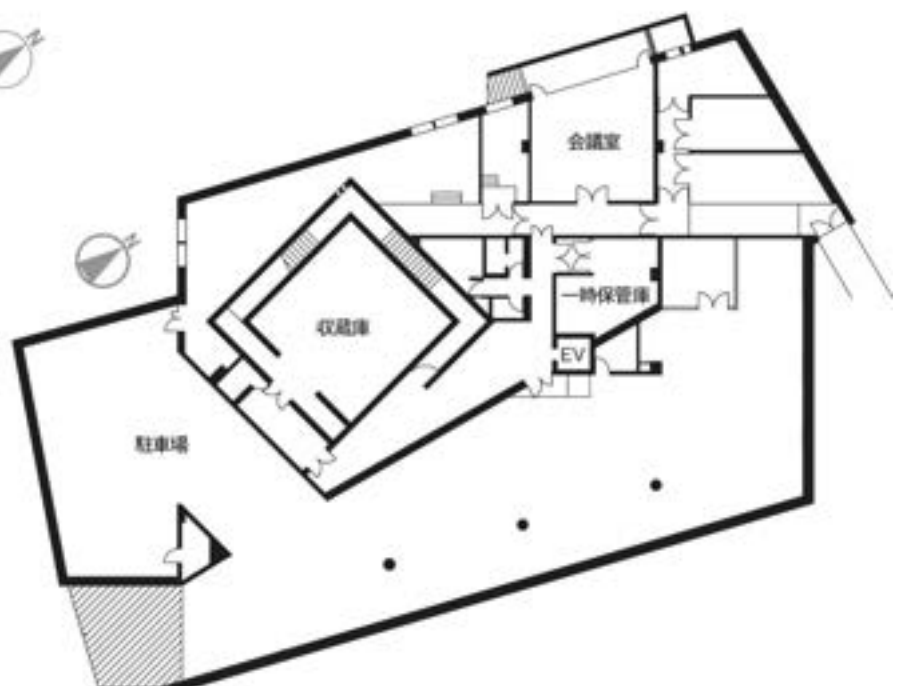
2 階



1 階



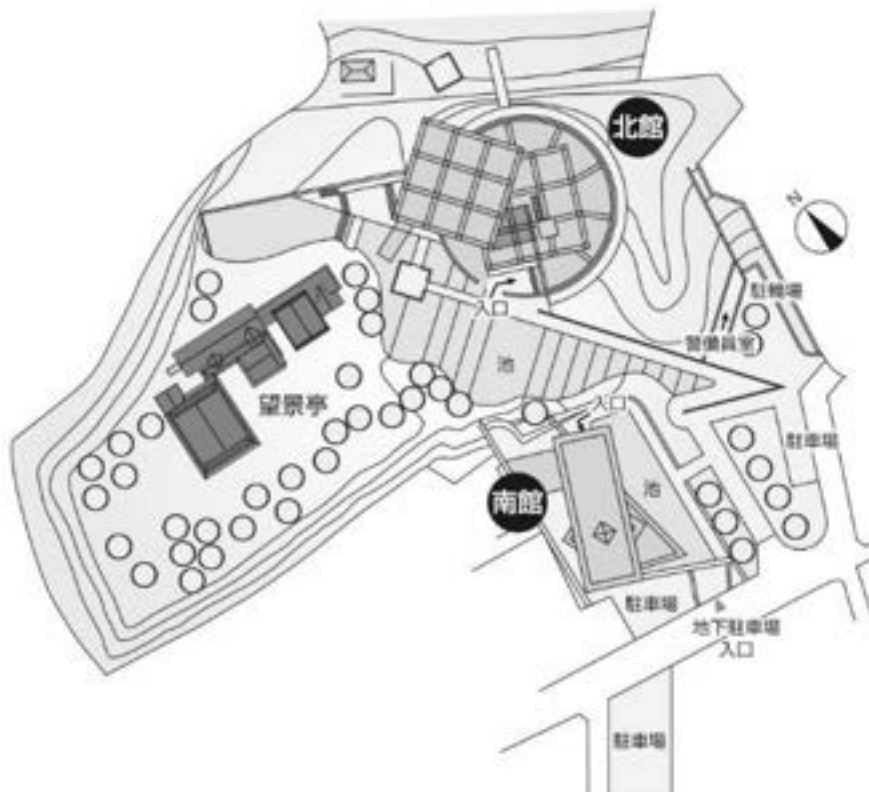
B1 階



望景亭



配置図



日 誌 抄

- 4月13日 建築学生対象バックヤード見学ツアーで兵庫県立大学環境人間学部学生に見学会実施。
- 4月27日 特別展「大乙嫁語り展」（以下、「大乙嫁展」）が開幕（～6月23日）。
- 5月18日 国際博物館の日に協賛、常設展無料開放。
- 5月26日 望景亭の利活用に関する実証実験としてコスプレイベントを実施。主催はPIECE。
- 5月29日 姫路文学館友の会（以下、「友の会」）第1回理事会並びに総会開催。
- 6月1日 「大乙嫁展」記念イベント「森薫先生のらくがき雑談会」を開催。
- 6月4日 トライやる・ウィーク実施（～6月7日）。
- 6月8日 第3回藤原正彦姫路文学館長講演会を開催。
- 6月15日 第1回友の会研修講座「くらしの深掘り民俗学：日常に潜む「なぜ」と「なぜ」を解く」を開催。講師は関西学院大学教授の島村恭則氏。
- 7月6日 特別展「画業50年のあゆみ 黒井健絵本原画展」（以下、「黒井健展」）が開幕（～9月1日）。
- 「黒井健展」記念イベント「黒井健サイン会」を開催。
- 7月7日 「黒井健展」記念イベント黒井健講演会「絵本の生まれ方」を開催。
- 7月13日 第13回KOTOBAまつりPART1「琴丘高校生の案内で江戸時代のガイドブック『名所図会』にトラベル！」を開催。出演は、姫路市立琴丘高等学校図書文芸部。
- 7月20日 「黒井健展」記念イベント「えほんのじかん」を開催（8月17日も）。
- 7月27日 ちびっこセミナー「世界にひとつの絵本づくり」を開催（8月3日も）。
- 8月1日 博物館実習実施（～8月6日）。
- 8月7日 第26回司馬遼太郎メモリアル・デーを開催。
- 8月10日 「黒井健展」記念イベント講演会「絵本をつくる仕事」を開催（第2回姫路文学館友の会研修講座として実施）。講師は講談社幼児図書編集の長岡香織氏。
- 8月24日 「黒井健展」記念イベント「劇場版ごん GON, THE LITTLE FOX」上映会を実施。
- 9月14日 特別展「石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ」（以下、「石黒亜矢子展」）が開幕（～11月24日）。
- 「石黒亜矢子展」記念イベント「石黒亜矢子サイン会」を開催。
- 9月16日 第37回和辻哲郎文化賞（以下、和辻賞）一般部門第1回推薦会を開催（於姫路）。
- 9月20日 和辻賞学術部門第1回推薦会を開催（於東京）。
- 10月14日 「石黒亜矢子展」記念講演会「ばけねこクロニクル」を開催（姫路文学館友の会協賛事業として実施）。講師は、作家の京極夏彦氏。
- 10月31日 第1回友の会見学研修会「秋の奈良旅 柳生の里・宇陀松山の重要伝統的建造物群保存地区を訪ねて」を実施。
- 11月5日 和辻賞一般部門第2回推薦会を開催（於姫路）。
- 11月8日 和辻賞学術部門第2回推薦会を開催（オンライン）。
- 11月16日 関西文化の日に協賛、常設展無料開放。翌17日も。
- 11月19日 友の会ボランティア見学研修会「日本の始まりの地 明日香・三輪の旅」を実施。
- 11月24日 和辻賞一般部門第3回推薦会を開催（於姫路）。
- 12月5日 和辻賞学術部門第3回推薦会を開催（於東京）。
- 12月7日 企画展「生誕120年記念 詩人坂本遼展」（以下、「坂本遼展」）が開幕（～令和7年3月30日）。
- 12月11日 姫路城世界遺産登録日のため常設展無料開放。
- 12月19日 第2回友の会理事会を開催。
- 1月10日 和辻賞一般部門選考委員会を開催（於東京）。
- 1月16日 和辻賞学術部門選考委員会を開催（オンライン）。
- 1月19日 第9回藤原正彦エッセイコンクール表彰式を開催。
- 1月26日 第3回友の会研修講座「江戸時代 播磨の名所と名産―海の幸と川の恵み」を開催。講師は、龍野歴史文化史料館長の新宮義哲氏。
- 2月4日 第36回和辻哲郎文化賞受賞作を発表。
- 2月17日 第13回KOTOBAまつりPART2「兵庫県立大学環境人間学部 卒業設計展 “あたりまえ”とは何か」が開幕（～2月21日）。
- 2月18日 第16回如月まつりを開催（19日も）。
- 2月24日 「坂本遼展」記念イベント朗読会「たんぽぽの詩人 坂本遼の詩を味わう」を実施。出演は、劇団プロデューサー・Fの一谷円氏。

2月27日	第2回友の会見学研修会「冬の丹波路 篠山・柏原の城下町を訪ねて」を実施。
3月2日	第37回和辻哲郎文化賞授賞式を開催。
3月8日	第4回友の会研修講座「ドイツ文学路地裏散歩ーハインリヒ・フォン・クライスト『チリの地震』を読む」を開催。講師は、岡山大学准教授の由比俊行氏。
3月14日	友の会ボランティア総会・交流会を開催。
3月15日	第13回KOTOBAまつり PART3「やぎたみこさんトークショー「思いたったら絵本作家」」を開催。出演は、絵本作家のやぎたみこ氏。
3月19日	防火訓練を実施。

姫路文学館友の会

姫路文学館友の会は、文学を愛する市民が一堂に集い、さまざまな分野における学習の場に参加しながら会員相互の親睦会を深め、会員各々が自己の向上をはかっていくための組織として平成3年10月1日に発足した。

1 役員（令和7年5月31日現在）

会 長	家永善文					
副 会 長	原 誠吾					
常務理事	甲斐史子					
理 事	石川 誠	黒田美江子	坂本竜之介	奥田正彦	鎌谷弘美	
監 事	内海知香子	義則敏彦				

2 会員数（令和7年3月末日現在）

- ・ 正 会 員（ボランティア会員 63 人を含む） 371 人
（年会費 2,000 円×357 人、1,000 円／下半期×14 人）
- ・ 家族会員（年会費 1,000 円） 24 人
- ・ 学生会員（年会費 1,000 円） 4 人
- ・ 賛助会員（法人・団体 年会費 50,000 円） 4 社

3 令和6年度事業

(1) 総会 5月29日（水）

- 記念行事「初夏の調べ ～和楽器に親しむひととき」
出演：新福かな（箏）、松崎晟山（尺八）

(2) 各種講座

- ① 「万葉集」巻十三を読む （全10回 講師：大森亮尚 受講者 64人）
- ② 摂関時代の人々の人生 『源氏物語』の描かれた時代
（全10回 講師：菅原美文 受講者 116人）
- ③ 文学史を彩る名作との出会い（昭和編） （全10回 講師：山本欣司 受講者 71人）

○研修講座

- 「くらしの深堀り民俗学：日常に潜む「なぜ」と「なぜ」を解く」
講師：島村恭則 （6月15日 受講者 69人）
- 「絵本をつくる仕事」
講師：長岡香織 （8月10日 受講者 65人）
- 「江戸時代 播磨の名所と名産 ～海の幸と川の恵み～」
講師：新宮義哲 （1月26日 受講者 63人）
- 「ドイツ文学路地裏散歩 ―ハインリヒ・フォン・クライスト『チリの地震』を読む」
講師：由比俊之 （3月8日 受講者 48人）

(3) 見学研修会

- ①「秋の奈良旅～柳生の里・宇陀松山の重要伝統的建造物群保存地区を訪ねて」
（10月31日 参加者 38人）
- ②「冬の丹波路～篠山・柏原の城下町を訪ねて」
（2月27日 参加者 24人）
- ③「日本始まりの地 明日香・三輪の旅」
（ボランティア対象） （11月19日 参加者 35人）

(4) 協賛事業

- ① 特別展「石黒亜矢子展 ばけものぞろぞろ ばけねこぞろぞろ」協賛
京極夏彦講演会「ばけねこクロニクル」 (10月14日 参加者 300人)

(5) 主なボランティア活動

- ① 郵便発送作業 (5回)
② 各講座・諸行事の受付 (年間講座、和辻哲郎文化賞、特別展開会式) (60回)
③ ワーキンググループ活動
・展示ガイドグループ
勉強会 (12回)
常設展案内 (6回)
・おすすめ展示グループ (2回)
・おはなし会グループ
全体会議 (1回)
〈よいこのへや〉おはなし会 (12回)
特別展「えほんのじかん」 (2回)
おとなのためのおはなし会 (3回)
④ その他
・ボランティア全体会議
・如月まつり (展示ガイド・古本市・おはなし会)

4 文学館グッズ販売事業

友の会では、姫路文学館オリジナルグッズを制作し販売しているほか、時宜に応じて姫路文学館にふさわしい物品を入荷し販売している。

オリジナルグッズ

	品 名	価 格
絵葉書	資料図版 (11 種)	各 7 0
一筆箋	北館外観 (1 種)	3 0 0
	資料図版 (2 種)	各 3 0 0
	イラスト (2 種)	各 2 0 0
メモ帳	イラスト (2 種)	各 1 0 0
ファイル	クリアファイル	3 5 0
その他	一筆便箋・メモ 4 点セット 革製ペンケース、ブックカバー、書籍等 (随時販売)	5 0 0

令和 6 年度グッズ売上合計額 176,189 円

5 資料整理業務

平成 12 年度より、姫路市からの委託を受け、継続して行っている。姫路文学館が所蔵または新たに収集する資料について、文学館の方針に従って分類整理、情報検索システムへの登録等の業務を行うもの。

- (1) 受託期間 令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

(2) 業務内容

- ① 購入・寄贈図書、その他文学館資料の整理、保管、保存。
- ② 図書データ等の資料データの作成。
- ③ 情報検索システムへの登録作業。
- ④ 資料整理全般に関わる一切の業務。
- ⑤ その他、上記業務に関わる人員の雇用とそれに伴う整理・保存用品および事務用品の購入等。

(3) 雇用者数 1 人

(4) 受託金額 2, 5 1 5, 0 0 0 円

6 令和 6 年度決算（会計年度：令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）

収 入	1 6, 6 9 6, 0 5 3 円（資料整理業務費 2,515,000 円含）
支 出	1 0, 5 4 0, 6 0 6 円（資料整理業務費 2,515,000 円含）
翌年度繰越金	6, 1 5 5, 4 4 7 円

沿革

- 昭和 58 年 8 月 文化都市を目指す戸谷松司市長の方針に基づいて、「姫路市立文学資料館」の構想生まれる。
- 60 年 1 月 28 日 建設構想推進委員会及び資料収集調査委員会が文学資料館基本構想を答申。
- 61 年 5 月 1 日 姫路市民文化協会内に文学資料館開設準備室が発足。
- 63 年 2 月 17 日 郷土の哲学者和辻哲郎の生誕 100 年を記念して文化賞を創設。
- 3 月 31 日 展示基本設計完了。
- 4 月 1 日 市民局の中に文学資料館開設準備室を設置。
- 平成元年 3 月 31 日 建築設計完了。
- 5 月 22 日 文学資料館の正式名称を「姫路文学館」に決定。
- 7 月 1 日 文学資料館開設準備室が市民局から教育委員会に移る。
- 9 月 9 日 起工式。
- 12 月 28 日 展示実施設計完了。
- 2 年 12 月 21 日 姫路文学館条例、姫路文学館条例施行規則、姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則を制定。
- 12 月 28 日 建築工事完了。
- 3 年 1 月 31 日 展示工事完了。
- 3 月 27 日 竣工式。
- 4 月 1 日 開館。中西進氏、初代館長に就任。
- 6 月 28 日 兵庫県が創設した「第 1 回さわやか街づくり賞」建築部門を受賞。
- 7 月 11 日 建設省制定の「手づくり郷土賞」素材部門を受賞。
- 10 月 1 日 姫路文学館友の会発足。
- 4 年 3 月 26 日 姫路文学館条例の改正。4 月 1 日施行。
- 5 年 3 月 25 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
- 4 月 23 日 姫路文学館施設整備検討委員会が施設整備基本構想を答申（別館建設を提案）。
- 6 年 3 月 4 日 入館者 10 万人達成。
- 3 月 18 日 別館展示設計及び建築設計完了。
- 10 月 19 日 別館起工式。
- 7 年 10 月 31 日 別館建築工事完了。
- 8 年 3 月 18 日 別館展示工事完了。
- 3 月 26 日 姫路文学館条例の改正。5 月 25 日施行。
- 4 月 1 日 姫路市教育委員会行政組織規則の改正、総務課、学芸課の 2 課制となる。
館の名称変更（本館を北館に、別館を南館に）。
- 5 月 24 日 南館竣工式。
- 5 月 25 日 南館開館。司馬遼太郎記念室を設置。
- 7 月 4 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。同日施行。
- 9 年 3 月 31 日 姫路文学館条例の改正。4 月 1 日施行。
- 5 月 31 日 中西進館長退任。
- 6 月 1 日 上田正昭氏、第 2 代館長に就任。
- 10 年 3 月 20 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
- 13 年 8 月 28 日 姫路文学館条例施行規則の改正。同日施行。
- 14 年 6 月 10 日 姫路文学館公式ホームページ開設。
- 17 年 2 月 25 日 和辻哲郎文化賞展示コーナーを設置。
- 19 年 3 月 28 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
- 20 年 7 月 23 日 博物館法第 10 条の規定による登録博物館となる。
- 21 年 8 月 7 日 望景亭が国登録有形文化財となる。
- 23 年 2 月 3 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。3 月 1 日施行。
- 26 年 3 月 31 日 上田正昭館長退任。
- 4 月 1 日 藤原正彦氏、第 3 代館長に就任。
- 27 年 6 月 23 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。7 月 1 日施行。
- 7 月 16 日 北館、南館の大規模改修工事及び展示更新制作開始。
- 28 年 6 月 24 日 姫路文学館条例の改正。7 月 30 日施行。
- 7 月 30 日 北館、南館のリニューアル開館。
- 29 年 3 月 29 日 姫路文学館条例の改正。7 月 1 日施行。
- 30 年 12 月 26 日 姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則の改正。4 月 1 日施行。
- 31 年 3 月 27 日 姫路文学館条例の改正。10 月 1 日施行。
姫路文学館条例施行規則の改正。10 月 1 日施行。
- 令和 2 年 3 月 5 日 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、臨時休館措置を開始（～5 月 31 日）。
- 3 年 4 月 25 日 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、臨時休館措置を開始（～5 月 11 日）。

- 12月22日 姫路文学館条例の改正。4月1日施行。
- 4年3月29日 姫路文学館条例施行規則（教育委員会規則）廃止及び姫路文学館条例施行規則（姫路市規則）制定。4月1日施行。
- 4月1日 教育委員会より観光スポーツ局へ移管。
- 5年6月16日 姫路文学館条例施行規則の改正。公布の日から施行。
- 7月1日 組織改正により観光経済局の所管となる。

条 例 規 則 集

○姫路文学館条例

平成2年12月21日
条例第32号

改正 平成4年3月26日条例第4号
平成8年3月26日条例第26号
平成9年3月31日条例第3号
平成28年6月24日条例第52号
平成29年3月28日条例第34号
平成31年3月27日条例第61号
令和3年12月22日条例第55号
令和5年12月20日条例第83号

(設置)

第1条 郷土ゆかりの文学者を顕彰するとともに、文学に関する市民の知識及び教養の高揚を図るため、姫路文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

(施設の位置)

第2条 文学館の位置は、次のとおりとする。

姫路市山野井町84番地

(事業)

第3条 文学館は、第1条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 郷土ゆかりの文学者の文学作品及びその作者又は作品に関する資料を収集し、保管し、又は展示すること。
- (2) 郷土を題材とした文学作品及びこれに関する資料を収集し、保管し、又は展示すること。
- (3) 前2号に規定する作品、作者及び資料に関する調査及び研究を行うこと。
- (4) 文学に関する講演会、講習会、講座等を開催し、及びその奨励を行うこと。
- (5) 文学に関する研究書、解説書等を作成し、刊行すること。
- (6) 文学及び学芸に関する集会並びに展示のために文学館の施設を提供すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、文学館の目的を達成するため必要な事業を行うこと。

(職員)

第4条 文学館に、館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(観覧料)

第5条 文学館が展示する文学作品及び資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料（消費税及び地方消費税相当額を含む。以下同じ。）を納付しなければならない。

2 前項の規定により特別展示観覧に係る観覧料を納付した者が、当該特別展示観覧の期間中において常設展示観覧をする場合にあっては、市長は、当該期間中において1回に限り、当該者の常設展示観覧に係る観覧料を徴収しないことができる。

(特別観覧許可及び特別観覧料)

第6条 文学館が保管し、又は展示する文学作品及び資料（以下「文学館資料」という。）を研究のために熟覧し、複写し、又は撮影しようとする者は、市長の許可を受け、1点1回につき3,070円（消費税及び地方消費税相当額を含む。）の範囲内で市長が規則で定める額の特別観覧料を納付しなければならない。

(占用使用許可及び占用使用料)

第7条 別表第2に掲げる文学館の施設を占用して使用しようとする者は、市長の許可を受け、同表に定める占用使用料（消費税及び地方消費税相当額を含む。以下同じ。）を納付しなければならない。

(使用の制限)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、前2条の許可（以下「使用許可」という。）をしない。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認めるとき。
- (2) 文学館の設置の目的に反する使用をし、又はそのおそれがあると認めるとき。
- (3) 文学館の施設又は文学館資料を損傷するおそれがあるとき。
- (4) 文学館の管理に支障があると認めるとき。
- (5) その他市長が不適当と認めるとき。

(許可の条件)

第9条 市長は、使用許可に際し、必要な条件を付することができる。

(譲渡及び転貸の禁止)

第10条 使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならな

い。

(許可の変更等)

第11条 市長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、使用者に対して、その使用許可の変更若しくは使用の停止を命じ、又はその使用許可を取り消すことができる。この場合において使用者に生じた損害については、市長はその責めを負わない。

- (1) 使用者が、この条例若しくはこれに基づく規則又は使用許可条件に違反して文学館の施設又は文学館資料を使用したとき、又は使用しようとするとき。
- (2) 使用者が、偽りその他不正の手段により使用許可を受けたとき。
- (3) 災害その他不可抗力によって使用させることができなくなったとき、又は使用させることが不適当と認められるとき。
- (4) 前各号に定めるもののほか、市長が、公用、保安又は管理上の都合により特に必要と認めるとき。

(観覧料等の減免)

第12条 市長は、公益上必要と認めるときは、第5条第1項に規定する観覧料、第6条に規定する特別観覧料及び第7条に規定する占用使用料を減額し、又は免除することができる。

(観覧料等の還付)

第13条 既納の観覧料、特別観覧料及び占用使用料は、還付しない。ただし、第11条第3号若しくは第4号に該当するとき、又は市長がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

(特別の設備)

第14条 使用者は、特別な設備をしようとするときは、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。

- 2 市長は、管理上必要と認めるときは、使用者の負担において必要な設備をさせることができる。
- 3 使用者は、前2項に規定する設備をしたときは、使用許可期間満了までにこれを撤去し、原状に復さなければならない。

(秩序維持)

第15条 何人も、文学館において次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 文学館の施設及び文学館資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。
- (2) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑とな

る行為をし、又はこれらのおそれがある物品若しくは動物の類を携帯すること。

- (3) 許可なくして展示された文学館資料に触れること。
 - (4) 許可なくして模写、模造、撮影等を行うこと。
 - (5) 許可なくして物品の販売、宣伝その他営利行為を行うこと。
 - (6) 許可なくして印刷物、ポスター等を配布し、又は掲示すること。
 - (7) 所定の場所以外の場所において飲食し、喫煙し、その他火気を使用すること。
 - (8) 前各号に定めるもののほか、文学館の管理に支障がある行為をすること。
- (入館の拒否、退館命令等)

第16条 市長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、文学館への入館を拒否し、退館を命じ、又はその他必要な措置をとることができる。

- (1) 前条の規定に違反する行為をし、又はしようとする者
 - (2) 前号に定めるもののほか、文学館の管理上の必要な指示に従わない者
- (損害の賠償)

第17条 文学館の施設及び文学館資料を汚損し、損傷し、又は亡失した者及び第14条第3項に規定する義務を履行しない者は、市長の認定額の損害を賠償しなければならない。

(補則)

第18条 この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、市長が告示で定める日から施行する。ただし、第7条から第14条まで及び別表第2の規定は、平成3年1月4日から施行する。

(平成3年3月14日告示第30号で平成3年4月1日から施行)

附 則 (平成4年3月26日条例第4号)

この条例は、平成4年4月1日から施行する。

附 則 (平成8年3月26日条例第26号)

この条例は、平成8年5月25日から施行する。

附 則 (平成9年3月31日条例第3号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則 (平成28年6月24日条例第52号)

この条例は、平成28年7月30日から施行する。ただし、

第3条第1号及び第2号、第6条、第8条、第11条、第12条（「減額」を「減額し、」に改める部分に限る。）、第15条から第17条まで並びに別表第2備考第3項の改正規定は、公布の日から施行する。

附 則（平成29年3月28日条例第34号）

この条例は、平成29年7月1日から施行する。

附 則（平成31年3月27日条例第61号）

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

附 則（令和3年12月22日条例第55号）

（施行期日）

1 この条例は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和5年12月20日条例第83号）

（施行期日）

1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この条例による改正後の別表第2の規定は、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）以後の使用に係る使用料について適用し、施行日前の使用に係る使用料については、なお従前の例による。

3 施行日以後に特別展示室を使用しようとする者が、この条例の公布の日前に使用許可に係る申請をした場合における当該使用許可に係る使用料については、前項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1（第5条関係）

観覧料

区 分		金額（1人につき）	
		個人	20人以上の団体
常設展示観覧	一般	円 450	円 360
	大学生・高校生	300	240
	中学生・小学生	150	120
特別展示観覧		2,000円以内で市長が定める額	

備考

1 常設展示観覧とは、文学館が平常的に展示する文学作品及び資料の観覧をいい、特別展示観覧とは、文学館が主催して特別に展示する文学作品及び資料の観覧をいう。

2 一般とは、大学生・高校生及び中学生・小学生以外の者で15歳以上のものをいい、大学生・高校

生とは、大学、高等専門学校、高等学校、専修学校、各種学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

別表第2（第7条関係）

施設占用使用料

使用時間 使用施設	1日	午前	午後
	午前9時から 午後5時まで	午前9時から 正午まで	午後1時から 午後5時まで
特別展示室	円 10,240	円 4,410	円 5,830
講堂	10,240	4,410	5,830
和室	7,330	3,160	4,170
茶室	5,190	2,130	3,160
洋間	7,330	3,160	4,170
さんかく ギャラリー	7,330	3,160	4,170

備考

1 使用者が入場料又は入場料に類するものを徴収する場合における使用料は、使用区分に係る使用料の額に、当該使用料の10割に相当する額を加えた額とする。

2 特別展示室を展示の準備又は片付けのために使用するときの使用料は、使用区分に係る使用料の額（前項に該当するときは、その割増料金を加算した額）の5割相当額とする。

3 使用許可時間を超過し、又は時間を早めを使用する場合の超過時間に係る使用料は、所定の使用料（前各項のいずれかに該当するときは、当該各項により計算された額）を基礎として、それぞれの料金表の使用時間の区分ごとに1時間当たりの算出料金（使用料に定めのない時間帯にあっては、当初使用許可を受けた時間区分に係る1時間当たりの算出料金）に超過時間に乗じた額の合計額とする。この場合において、超過時間の計算は、1時間未満のときはこれを1時間とし、1時間を超える場合で1時間に満たない端数時間があるときはその端数時間は1時間として計算する。

4 前項における使用料の算定において、算出した使用料の合計額に10円未満の端数が生じたときは、これを切り捨てる。

○姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則

平成2年12月21日
規則第57号

改正 平成 5年 3月25日規則第10号
平成 8年 7月 4日規則第61号
平成 10年 3月20日規則第23号
平成 19年 3月28日規則第15号
平成 23年 2月 3日規則第 6号
平成 27年 6月23日規則第60号
平成 29年12月19日規則第59号
平成 30年12月26日規則第60号

(趣旨)

第1条 この規則は、姫路文学館条例(平成2年姫路市条例第32号。以下「条例」という。)第12条の規定による観覧料、特別観覧料及び占有使用料(以下「観覧料等」という。)の減免並びに条例第13条のただし書の規定による観覧料等の還付に関し必要な事項を定めるものとする。

(観覧料等の減免)

第2条 条例第12条の規定により、観覧料等を減免することができる場合及びその額は、次に定めるところによる。

- (1) 療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は身体障害者手帳の交付を受けた者(以下「障害者」という。)及び当該障害者の介護者が観覧するとき 常設展示観覧料の全額及び特別展示観覧料の半額
- (2) 市内に居住する65歳以上の者が観覧するとき 常設展示観覧料の全額
- (3) 市内及び連携中枢都市圏構想推進要綱(平成26年8月25日付け総行市第200号総務省自治行政局長通知)に基づく連携協約市町の学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校及び特別支援学校の生徒又は児童並びにその引率者が学校行事として観覧するとき 常設展示観覧料の全額
- (4) 使用者が市と共同で占有使用するとき 占有使用料の5割に相当する額
- (5) 市が使用するとき 占有使用料の全額
- (6) 前各号に定めるもののほか、市長が特別の理由があると認めるとき 観覧料等の額のうち市長が相当と認める額

- 2 前項の規定により観覧料等の減免を受けようとする者は、前項第1号及び第2号の規定により減免を受けようとする者にあつては、当該減免事由を証する手帳等を提示し、同項第3号の規定により減免を受けようとする者にあつては、文学館観覧料等減免申請書を提出し、同項第4号又は第5号の規定により減免を受けようとする者にあつては、文学館施設占有使用許可申請書の該当欄にその旨を記載しなければならない。(観覧料等の還付)

第3条 条例第13条ただし書の規定により観覧料等を還付することができる場合及びその額は次に定めるところによる。

- (1) 条例第11条第3号又は第4号に該当するとき 既納観覧料等の全額
- (2) 災害その他不可抗力による事由により使用できなかったとき 既納の占有使用料の全額
- (3) 占有使用を中止しようとする者から次に掲げる期日までに正当な理由により使用中止届があつた場合
 - ア 使用期日前2月までの場合 既納の占有使用料の8割に相当する額
 - イ 使用期日前1月までの場合 既納の占有使用料の5割に相当する額

- 2 前項の規定により観覧料等の還付を受けようとする者は、文学館観覧料等還付申請書を市長に提出しなければならない。

(補則)

第4条 この規則の運用に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成3年1月4日から施行する。

附 則 (平成5年3月25日規則第10号)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則 (平成8年7月4日規則第61号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成10年3月20日規則第23号)

- 1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の姫路文学館観覧料等の減免及び還付に関する規則第3条第1項の規定は、この規則の施行の日以後に申請のあつた使用許可に係る使用料の還付について適用し、同日前に申請のあつた使用許可に係る使用料の還付については、なお従前の例による。

附 則（平成19年3月28日規則第15号）
この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成23年2月3日規則第6号）
この規則は、平成23年3月1日から施行する。

附 則（平成27年6月23日規則第60号）
この規則は、平成27年7月1日から施行する。

附 則（平成29年12月19日規則第59号）
この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成30年12月26日規則第60号）
（施行期日）

- 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
（経過措置）
- 2 この規則による改正後の規定は、この規則の施行の日以後にされた申請に基づく使用許可に係る使用料、占有使用料又は特別展示室使用料（以下「使用料等」という。）について適用し、同日前にされた申請に基づく使用許可に係る使用料等については、なお従前の例による。

○姫路文学館条例施行規則

令和4年3月29日
規則第12号

改正 令和5年6月16日規則第47号
令和5年12月20日規則第91号

（趣旨）

第1条 この規則は、姫路文学館条例（平成2年姫路市条例第32号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第2条 文学館の開館時間は、次に掲げる施設の区分に応じ、当該各号に定める時間とする。

- （1）北館及び望景亭 午前10時から午後5時まで。
ただし、条例第7条の許可を受けて条例別表第2に掲げる施設を使用する場合は、午前9時から午後5時まで
- （2）南館の開館時間 午前9時から午後5時まで

2 前項の開館時間は、市長が必要と認めるときは、これを変更することができる。

（休館日）

第3条 文学館の休館日は、次に掲げるとおりとする。
ただし、市長が必要と認める場合は、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

- （1）月曜日。ただし、月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日（月曜日を含んで連続した休日がある場合においては、当該連続した休日の最後の日の翌日）とする。

- （2）12月25日から翌年1月5日まで
（観覧料等の納付）

第4条 条例第5条に規定する観覧料、条例第6条に規定する特別観覧料及び条例第7条に規定する占有使用料は前納しなければならない。ただし、旅行業法（昭和27年法律第239号）第3条に規定する者で市長が指定した者（以下「旅行者」という。）が取り扱う観覧料、市長が特別な事由があると認める特別観覧料及び国、地方公共団体又は公共的団体が使用する場合は、この限りでない。

- 2 第11条の規定による使用時間の延長の許可を受けて使用する場合は、当該使用時間延長に係る占有使用料は、使用終了後直ちに納付しなければならない。

（観覧券の交付）

第5条 条例第5条の規定により観覧料を納付した者に対しては、納付と同時に観覧券を交付するものとする。

- 2 観覧券の種類は、次のとおりとする。

- （1）個人観覧券
- （2）団体観覧券
- （3）前売観覧券

- 3 文学館の観覧の取扱いを旅行者に委任した者については、当該旅行者が観覧券に代わるものとして発行するものの提出をもって条例第5条に規定する観覧料の納付があったものとみなす。

- 4 観覧券の交付は、閉館時間の30分前までとする。
（特別観覧許可の申請）

第6条 条例第6条の許可を受けようとする者は、あらかじめ文学館資料特別観覧申請書を市長へ提出しなければならない。

- 2 市長は条例第6条の許可をしたときは、当該申請者に文学館資料特別観覧許可書を交付するものとする。
- 3 条例第6条の許可を受けた者は、熟覧、複写又は撮影に際し、文学館資料特別観覧許可書を携帯し、文学館の職員の要求があったときは、これを提示しなければ

ばならない。

(特別観覧料)

第7条 条例第6条の規定により市長が規則で定める特別観覧料は、別表のとおりとする。

(占有使用許可等の申請)

第8条 条例第7条の規定により市長の許可を受けようとする者(以下「申請者」という。)は、あらかじめ文学館施設占有使用許可申請書(以下「申請書」という。)を市長に提出しなければならない。

- 2 前項の申請書は、使用しようとする日(以下「使用期日」という。)の属する月の3か月前の月の初日から使用期日の3日前までに提出しなければならない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。
- 3 前項の規定にかかわらず、特別展示室を使用しようとする者は、次の各号に掲げる使用期日の区分に応じ、当該各号に定める期間内に第1項の申請書を提出することができる。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

- (1) 使用期日が1月6日から3月31日である場合
当該使用期日の属する年の前々年の10月1日から当該使用期日の3日前まで
- (2) 使用期日が4月1日から9月30日である場合
当該使用期日の属する年の前年の4月1日から当該使用期日の3日前まで
- (3) 使用期日が10月1日から12月24日である場合
当該使用期日の属する年の前年の10月1日から当該使用期日の3日前まで
- (占有使用許可書の交付)

第9条 市長は、条例第7条の許可をしたときは、申請者に文学館施設占有使用許可書を交付するものとする。

- 2 条例第7条の許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、文学館の施設の使用に際し、文学館施設占有使用許可書を携帯し、文学館の職員の要求があったときは、これを提示しなければならない。

(使用期間等)

第10条 特別展示室の使用期間は、毎週火曜日から起算して6日間を1単位とする。ただし、市長が必要と認めるときは、この限りでない。

(使用時間の延長)

第11条 使用者は、やむを得ない理由により当該許可に係る使用時間を超過し、又は時間を早めに使用す

る必要があるときは、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。

(使用中止届)

第12条 占有使用を中止しようとする者は、文学館施設占有使用中止届に使用許可書を添えて市長に提出しなければならない。

(収集の基準)

第13条 条例第6条に規定する文学館資料(以下「文学館資料」という。)の収集は、次に掲げる文学作品及び資料(以下「資料」という。)について行うものとする。

- (1) 郷土ゆかりの文学者の文学作品及びその作者又は作品に関する資料
- (2) 郷土を題材とした文学作品及びこれに関する資料
- (3) 前2号に掲げるもののほか、文学館の目的を達成するために必要な資料

(収集の方法)

第14条 資料の収集は、購入、受贈若しくは受託又は借用により行うものとする。

(資料の購入)

第15条 資料を購入するときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値及び価格の妥当性等について学識経験者の意見を聴くものとする。

(資料の寄贈)

第16条 文学館に資料を寄贈しようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

- 2 市長は、前項の申出があったときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値について学識経験者の意見を聴くものとする。

- 3 市長は、第1項の規定により寄贈を承諾した資料の引渡しを受けたときは、文学館資料受領書を寄贈者に交付するものとする。

- 4 前3項の規定にかかわらず、軽易なものについては、これらの規定を適用しないことができる。

(資料の寄託)

第17条 文学館に資料を寄託しようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

- 2 市長は、前項の申出があったときは、必要に応じ、当該資料の文学的価値について学識経験者の意見を聴くものとする。

(資料の寄託の期間及び返還)

第18条 資料の寄託の期間は、3年とする。ただし、寄託者との協議により、この期間を変更することができる。

2 寄託者は、寄託の期間中であっても、返還を希望する日の60日前に寄託資料返還申出書を提出して寄託した資料の返還を受けることができる。

(寄託を受けた資料の取扱い)

第19条 市長は、寄託者の同意を得て、寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)を展覧若しくは特別観覧に供し、その複製物を公刊し、又は頒布することができる。

2 市長は、寄託資料のうち補修が必要なものについては、寄託者の同意を得て補修することができる。

(資料の借用)

第20条 市長は、資料を借用するときは、その所有者に資料借用書を交付し、その控えを保管するものとする。

(資料の貸出し)

第21条 文学館資料の貸出しを受けようとする者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

2 市長は、前項の規定による申出者が次の各号のいずれかに該当し、かつ、貸出しの目的が文学、歴史、芸術等に関する教養の高揚、調査研究等に資するとともに、当該貸出しが文学館の業務に支障がないと認められるときは、貸出しの承諾をすることができる。

(1) 国又は地方公共団体が設置する文学館、博物館又はこれらに類する施設の長

(2) 前号に規定する施設以外の施設で、博物館法(昭和26年法律第285号)第11条の規定による登録を受けた博物館又は同法第31条第1項の規定による指定を受けた博物館に相当する施設の長

(3) 公共性を有する報道機関が企画主催する文学展等の場合の主催者

(4) 前3号に掲げるもののほか、市長が適当と認めた者

(貸出しの制限)

第22条 市長は、文学館資料のうち次に掲げるものについては、貸出しをしない。

(1) 文学館資料の保存上、貸出しをすることが望ましくない資料

(2) 未整理の資料

(3) 寄贈者、寄託者等の文学館資料の提供者から、あらかじめ貸出しの制限を求められている資料

(4) 前3号に掲げるもののほか、市長が特に貸出しを制限する必要があると認めた資料

(貸出しの期間)

第23条 文学館資料の貸出し期間は、60日以内とする。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(寄託資料の貸出し)

第24条 市長は、寄託者の同意を得て寄託資料の貸出しをすることができる。

2 寄託資料の貸出しについては、前3条の規定を準用する。

(文学館資料の翻刻)

第25条 文学館資料の翻刻を行う者は、市長に対し書面による申出を行い、その承諾を得なければならない。

2 市長は、前項の承諾に際して必要と認める条件を付すことができる。

(翻刻の制限)

第26条 市長は、文学館資料のうち次に掲げるものについては、翻刻の承諾をしない。

(1) 未整理の資料

(2) 寄贈者、寄託者等の原資料の提供者から、あらかじめ翻刻の制限を求められている資料

(3) 前2号に掲げるもののほか、市長が、特に翻刻を制限する必要があると認めた資料

(文学館資料の熟覧)

第27条 文学館資料の熟覧は、次に定めるところにより行うものとする。

(1) 熟覧は、文学館内の所定の場所で、文学館の職員の立会いのもとで行うものとする。

(2) 文学者の自筆の資料の熟覧については、複写等により二次資料が作成されている場合は、二次資料によって行うものとする。

(文学館資料の複写)

第28条 文学館資料の複写は、次に定めるところにより行うものとする。

(1) 複写は、文学館内の所定の場所で、文学館の職員の立会いのもとで行うものとする。

(2) 文学館資料を複写する者は、著作権法(昭和45年法律第48号)を遵守し、著作権に係る問題が生じた場合は、全ての責めを負うものとする。

2 市長は、前項各号に定めるもののほか、複写に関し必要と認める条件を付することができる。

(文学館資料の撮影)

第29条 文学館資料の撮影については、前条の規定を準用する。

(熟覧、複写及び撮影の制限)

第30条 前3条に定めるもののほか、文学館資料の熟覧、複写及び撮影については、第22条の規定を準用する。

(補則)

第31条 この規則に定めるもののほか、文学館の管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則(令和5年6月16日規則第47号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(令和5年12月20日規則第91号)

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

別表 (第7条関係)

特別観覧料

区 分		特別観覧料 (1点1回につき)
複 写	電子複写機による	30円
撮 影	新規撮影 〔学術用〕	310円
	新規撮影 〔その他〕	3,070円
	フィルム貸出し・データ提供 〔学術用〕	150円
	フィルム貸出し・データ提供 〔その他〕	1,530円

2 文化賞の贈与は、毎年3月に行う。

(選考委員)

第3条 文化賞の選考は、文化賞選考委員（以下「選考委員」という。）の協議により決定する。

2 選考委員は、日本文化に関し、卓越した見識を有する者のうちから市長が委嘱する。

(選考基準)

第4条 文化賞の選考の対象となる著作物は、毎年9月1日を基準日とし、同日前1年以内に発表されたもので、次の各号に定めるものとする。

(1) 一般部門 日本文化、伝統文化、風土と人間生活との関連等に関するもので和辻の研究業績に共鳴する評論

(2) 学術部門 哲学、倫理学に関するもので高い水準に達した学術論文

(補則)

第5条 この規則の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

この規則は、昭和63年7月1日から施行する。

○和辻哲郎文化賞規則

昭和63年5月17日

規則第29号

(目的)

第1条 この規則は、和辻哲郎の日本文化に関する幅広い活動を顕彰し、かつ市民の文化水準の向上に資するため、日本文化に関する優れた著作物に対し、和辻哲郎文化賞（以下「文化賞」という。）を贈与することを目的とする。

(贈与)

第2条 文化賞の贈与は、記章、賞状及び賞金とする。

利 用 案 内

- 開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日・休日の翌日（土・日・休日を除く）
年未年始

●観覧料

区 分		金 額	
		個 人	20人以上の 団 体
常設展示	一 般	450円	360円
	大学生・高校生	300円	240円
	中学生・小学生	150円	120円
特別展示は別料金となります。			

- アクセス JR・山陽姫路駅前から
神姫バス9・10・17・18番のりばで乗車6分、
「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩4分
※上記乗り場から発車するバスにも「市之橋文学館前」に止まらないものがありますので、
確認のうえご乗車ください。
6番のりばで城周辺観光ループバス乗車10分、
「清水橋（文学館前）」下車、西へ徒歩3分

- 問い合わせ 姫路文学館
〒670-0021 姫路市山野井町84番地
TEL (079)293-8228 FAX (079)298-2533
e-mail : kyo-bungaku@city.himeji.lg.jp
<http://www.himejibungakukan.jp/>



姫路文学館年報 第33号（令和6年度）

編集・発行 姫 路 文 学 館
〒670-0021 姫路市山野井町84番地
TEL (079) 293-8228
FAX (079) 298-2533

令和7年（2025年）9月1日発行